

かねざわ

第72号

2020年（令和2年）2月

(P—5) 第7回学習会「軍記物語と鎌倉」

(P—11) 会員の寄稿「わっ！おもしろい金沢（2）：
波の伊八が彫った龍」

目次

運営委員会からのお知らせ

- 2 フォーラム KANAZAWA2019 出展報告
- 3 分科会代表との連絡会報告

学習会

- 5 第7回学習会「軍記物語と鎌倉」

会員の寄稿

- 11 「わっ！おもしろい金沢（2）：
波の伊八が彫った龍」

分科会からの便り

- 16 「寺社を巡る会」活動記録（11月～1月）

- 24 「ふれあいの道歩こう会」実施概要No.28

代表 柴崎 幸治

- 28 「懐かしの映画を観る会」No.33

代表 佐藤 晃

- 33 「浮雲俳句会」抄録No.48

代表 北野 清市

歴史研究

- 38 「江戸時代の五街道を歩く」（9）

「古文書を読む会」 代表 真田 雅行

- 44 行事予定（3月～5月）



金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ：<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>
メー ル：yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

生涯学習交流会「フォーラム KANAZAWA2019」出展報告

日 時：2019年（令和元年）11月16日（土）

10:00～15:30

場 所：金沢区役所、公会堂、泥亀公園

主 催：金沢区生涯学習交流会実行委員会

共 催：金沢区役所

出展数：36団体



フォーラムKANAZAWAの
マスコット「イルパン」

フォーラムKANAZAWAは、金沢区の肝いりで毎年開催されます。

目的は、金沢区内で生涯学習を実践している「街の先生」「登録団体」が日々の活動や成果を一般の人に伝え、市民活動や生涯学習への参加を促すこと。また、各団体や先生、区民が相互に交流することで金沢区の市民活動・生涯学習が活性化されることを目指しています。

“わ”の会は、『金沢区「登録団体」一覧表』の筆頭に掲載されている最有力団体であり、例年通り今年も出展しまし



た。ブースには内田代表はじめ運営委員5～6名が待機してお客に対応しました。

今年の掲示パネル（模造紙2枚）は、昨年実績をベースにさらに分かり易さ・見易さを向上させ、評判も上々。会の活動理念「定例学習会と分科会活動の両輪で金沢の歴史を学び豊かな生きがいを作る」を掲げ、“わ”の会の主な活動を紹介し、2020年度の学習会予定も公開しました。もう一枚のパネルでは6つの分科会の実績と計画を写真や図表でカラフルに紹介しました。

見本を置いた「かねざわの歴史事典」は皆さんの関心も高く、団体で訪れた金



沢区青少年指導員協議会の人たちは、内容をじっくり見て「地域の歴史を子供たちに教えるのにたいへん良い資料だ」と絶賛して頂きました。

今年のフォーラムでは、消防署が新しくできた金沢公会堂前の広場に消防車を持ち込み、ヘルメットや防火服を装着できる乗車体験をやっており、その隣では段ボールで好きなものを作るイベントもあって子供たちに大変な人気でした。出展者には、尺八やお琴、民謡などの伝統音楽、華道・茶道・俳句・写経などの伝統文化、フラダンス・日本舞踊・中国舞踊などの踊り、また金沢の歴史を学び・歩き・見ることを目的とした当会と似たグループもいくつかありました。

フォーラム会場があちこち分散しているため、訪問者が全会場に足を運ぶよう今年もスタンプラリーが組み込まれました。主な会場の4か所にマスコット「ぶんこのイルパン」などのスタンプを置き、すべてを押すと粗品がもらえるというものです。



“わ”の会のブースがある会場にもスタンプがありましたが、小さい子供を連れた若いお母さんがさっと会場に入ってきてスタンプ台にまっしぐら、スタンプを押してすっと帰っていく姿が多く見られました。今年の来場者数は700名（主催者発表）と昨年より多かったそうですが、“わ”の会のブースがある5階1号会議室は大人向けの知的な展示が多いので他の会場より人がまばらでした。まじめな展示だけでなくもっと人を引付け楽しませる工夫があるとよかったかも。（斧原良一 記）

第 15 回分科会代表との連絡会 報告

日 時 2020 年 1 月 18 日(土) 10 時 30 分～12 時 30 分

場 所 金沢区民活動センター会議室 AB

出席者 寺社を巡る会：吉田代表 金久保副代表 古文書を読む会：真田代表 松本世話役
ふれあいの道歩こう会：柴崎代表 懐かしの映画を観る会：佐藤代表 貝田副代表
浮雲俳句会：北野代表 鈴木副代表 (万葉集に親しむ会：松本代表 真田世話役)
運営委員：内田 江口 山腰 杉山 鈴木 三浦 田野実 斧原 工藤 (記録)鶴岡

配付資料 「第 15 回分科会代表との連絡会」次第

1. 内田代表挨拶

“わ”の会は学習会と分科会活動が車の両輪で回っています。したがって、“わ”の会が機能していくためには両者が緊密に連絡しあっていくことが重要になるので、今後ともよろしくお願いします。

2. 議事

2-1 各分科会の活動に関する事項

1) 今年度活動状況と来年度の活動予定

「寺社を巡る会」(吉田代表)

- ・配布資料に基づき予定・実績等の説明が行われた。
- ・来年度は久々地元の金沢を中心とした探訪を行う。委託先としては「横濱金沢シティガイド協会」に 8 回、「小田原ガイド協会」に 2 回を予定。
- ・会員の老齢化が進んでおり新会員の募集に注力したい。

「古文書を読む会」(真田代表)

- ・配布資料に基づき予定・実績等の説明が行われた。
- ・代表より学習記録の簡素化の説明があり、“わ”の会として特に支障はないとの表明があった。

「ふれあいの道歩こう会」(柴崎代表)

- ・配布資料に基づき予定・実績等の説明が行われた。
- ・台風等の影響で実施日の変更はあったが計画されたコースについてすべて実施できた。
- ・今期についても、安全第一の山歩きを実施したい。

「懐かしの映画を観る会」(佐藤代表)

- ・鑑賞会の参加者の長期減少が続いていたが漸く歯止めがかかり増加に転じてきている。
- ・2020 年度の日程表の説明があった

「浮雲俳句会」(北野代表)

- ・今年度のテーマは岬であったが、来年度のテーマは城とする。
- ・また、今年は東京オリンピックの開催年であり、それにも着目していきたい。

(万葉集に親しむ会) (松本代表)

- ・2018 年 4 月から活動を開始、現在の会員は 15 名。
毎月 1 回開催しているが、当面分科会への昇格は見合わせている。

2-2 “わ”の会の運営に関する事項

1) 新入会員懇談会について(内田)

- ・配付資料に基づき説明された。
- ・5年連続して実施したが、今後は衣替えして実施。

総会、第1回学習会後に懇親会を開催し、その場で分科会を説明していくこととする。

なお、今回の懇親会は初企画なので各分科会でも参加者を増やすよう配慮をお願いしたい。

2) 学習会について(内田・江口)

- ・配付資料に基づき説明された。
- ・第1回学習会は恒例となってきたが今年も会員によるものとなる(工藤君明氏)。
- ・探訪は江戸城散策とする。(10月8日木曜、なお古文書を読む会の第一学習と重複)

3) 来年度体制について(内田・江口)

- ・配付資料に基づき説明された。
- ・内田代表が任期満了となり、江口副代表が代表に就任、副代表は山腰委員。

4) 歴史事典について(内田)

- ・配付資料に基づき説明された。
- ・引き続き販売が好調に推移しており、製作費はまかなえる見込み。

5) 会報について(山腰)

- ・配付資料に基づき説明された。
- ・会員の寄稿は年間で4件。まだ十分とは言えないが増加傾向にはある。

6) ホームページ、“わ”の会通信について(江口)

- ・配付資料に基づき説明された。
- ・“わ”の会通信を見て、ホームページを見ない会員が多いと感じる。

7) フォーラム KANAZAWA について(杉山)

- ・配付資料に基づき説明された。

8) 20周年記念事業について(内田)

- ・予定していた4つの事業のうち3つは実施済み。
- 「20年の歩み」については作成中。

9) 懇親会推進のお願い(内田)

- ・新入会員懇親会部分ご参照

2-3 分科会から運営委員会へのご要望、ご意見

- ・特になし



第7回学習会

『軍記物語と鎌倉』

編集委員 田中 徳明

開催日：2019年11月9日（土）

9：30～12：00

会 場：能見台地区センター 多目的室

講 師：鶴見大学 講師 平藤 幸 氏



鎌倉とは

源頼朝が鎌倉に幕府を開いた中世以降、鎌倉は我が國の政治的な中心都市として重要な位置を占めてきた。まさに、頼朝こそは鎌倉の生みの親とも言うべき人物であろう。では、頼朝以前の鎌倉とは、どのようなものであったのであろうか。

先ず、「鎌倉」という地名は、奈良時代の「古事記」や「万葉集」にも登場しており、正倉院文書の中にも「相模國鎌倉郡鎌倉郷」という記載がみられる。また、駅裏の小学校校庭の発掘からは、8世紀から10世紀に機能していた郡役所跡と推定される遺構も見つかっている。そのことは、当時の鎌倉が、片田舎ではなかったことを示しているものと言える。

それでは、源氏と鎌倉の接点はどのような経過によって生じたものなのであろうか。

もともと、関東平野は、平氏の祖高望王の四人の子がそれぞれに拠点をもつ平氏の勢力圏となっていたものである。しかし、その平氏一族同士の間にも勢力争いはあったのである。

承平5年（935）には平将門の反乱が起こり、

長元元年（1028）には平忠常の乱が起きている。これらは、一面、東国における武士の勃興であったという評価もなされているが、この時、朝廷は平直方に乱の平定を命じている。しかし、直方は二年かけても成果を挙げることができなかったため、朝廷は、平氏に代えて源氏にその任を任せることとし、源頼信・頼義の親子が派遣された。これによって、忽ち忠常の乱は平定されたが、この時の頼義の戦い振りの勇猛さに感じ入った直方が、是非、自分の娘の婿にと要請し、これに併せて自分の鎌倉の屋敷をも譲渡したのである。当時の館とは、単なる家屋を指すのではなく、領地を併せ持つものであり、これが、源氏と鎌倉の接点の契機をなすものとなったのである。

また、頼義は、前九年の役に勝利した後の康平6年（1063）に、河内源氏の氏神である八幡宮を鎌倉の由比郷鶴岡に勧請しているが、治承4年には、頼朝が小林郷北山の地に遷座しており、これが、現在の鎌倉八幡宮として広く敬愛されているものである。

頼朝とは

源頼朝は、熱田神宮宮司藤原季範の娘を母に、久安3年（1147）に義朝の三男として生まれている。季範は貴族として崇徳院の母である待賢門院に仕える近臣であり、このような近親縁者の関係から、頼朝は幼くして、朝廷貴族との接点をもち、二歳の時には鳥羽上皇との見参が許されている。また、保元の乱の鎮圧戦における父義朝の働きが、後白河天皇の信頼を得た結果、頼朝は、後白河の姉の上西門院に女人蔵人として出仕することとなり、平治元年（1159）には、内蔵人に起用されている。しかし、このような境遇は、平治の乱の敗戦によって一変することになる。

時の政権に対する不満から反乱を起こした義朝は、連携を組んでいた藤原信頼ともども戦いに敗れ、信頼は清盛に捕らえられて斬首、義朝は、東国を目指して苦難の道を進んだが、尾張の國野間内海で捕らえられ殺害された。この時、頼朝は十三才で既に元服し成人として戦いに望んでいたが、敗戦により逃亡の途中父親にもはぐれていたところを追手に捕らえられ京に連行されてしまう。成人の戦闘員に待っているのは斬首の運命であったが、幸運にも清盛の継母池禅尼の嘆願によって助命され、永暦元年（1160）伊豆に配流されたのであった。

それからの二十年は、頼朝にも鎌倉にも、歴史上特筆すべき事件はなかったようである。伊豆における頼朝の日常は平穏なものであったといえるのではあるまいか。乳母比企尼の奉仕があり、義朝家人たちとの交流も認められており、伊豆の国主が摂津源氏の頼政であったこともその要因のひとつであった。その状況が、一変する。

京にあって、平清盛は後白河院政を停止し、独裁権力を造り上げたが、この結果、各地で後白河時代の在庁家人と、新しく進出を図る平氏家人との対立が激化することになった。こうした中、治承4年（1180）源氏一門に、決起を命じる以仁王の令旨が発せられた。しかし、この計画は清盛に露頭すると、幾ばくの時も経ずして以仁王も頼政も処分されてしまったのである。当然、頼朝に対する監視も厳しいものとなり、在京の源氏からは、頼朝の身边に危険が迫っていることも伝えて、陸奥への亡命を進言するという事態にもなっていたのであったが、頼朝はこれを拒否して、逆に挙兵という決断をしたのであった。

治承4年（1180）4月、頼朝は平氏打倒に向けて敢然と伊豆の地において挙兵した。

しかし、これに呼応した勢力は数百騎に過ぎず、初戦の伊豆の目代平兼隆襲撃は成果を挙げる事ができたが、その直後の石橋山の戦では大庭景親らの大軍に完敗し、辛うじて海上から房総へ逃れる事ができたという事態であった。しかし、ここにも、頼朝の強運を見る事ができるのではないだろうか。石橋山の合戦で生き延びる事ができたのも、房総に逃れ来てからの上総介広常、千葉常胤の支援を得られたことも、計り知れない力となった筈である。

また、その安房の地で再起の意志を固めていた頼朝が、千葉常胤に意見を求めた時、常胤が「現在の居所は要害の地でもなく、また、曩跡の地（源氏ゆかりの地の意）でもない。すみやかに、相模國鎌倉に出で給うべし」と言った事が頼朝の鎌倉への進行の決め手となったという話はよく知られている。

武士の鎌倉へ

こうして、頼朝は宏常ら房総の大軍を率いて鎌倉を目指したが、この趨勢を見て平知盛の知行國である武蔵の武士など、当初平氏側であった多くの武士たちが頼朝の陣営に参入してきた結果、頼

朝軍勢は数万人に膨れあがったのであった。そして、頼朝は、十月六日遂に鎌倉に入ったのである。石橋山での敗戦から、わずか四十余日後のことであった。思えば、頼義がこの地に拠点を持ち、ま

た、氏神である八幡宮を勧請した縁の地に、平氏を倒し天下を狙うべき地として、遂に源氏は鎌倉をその本拠とするに至ったのである。

しかし、頼朝にはそこにそのまま落ち着いている余裕はなかった。当然のことながら、平維盛を総大将として頼朝討伐の大軍が駿河国に進行してきていたのである。治承4年10月20日、富士川を挟んで頼朝軍と平氏の追討軍とが対峙する。しかし、ここにも幸運児頼朝の一端を見ることが出来る、ある意味では前代未聞の展開が待っていた。よく知られていることであるが、平家の大軍は鳥の羽音に驚き、戦わずして敗走してしまったのであった。この時にも、頼朝は、敗北して逃走する平氏を追って京を目指すことを命じたが、所領保全のために、東国における平氏の追討を優先して考える東国武士の要請で、関東にとどまったのであった。この決断も、結局はその後の頼朝にとっては正解となったと言えるのであろう。

こうして、頼朝は鎌倉の地に幕府を開き、八幡宮を鶴岡から小林郷へ移すなど着々と位置を固

め、鎌倉時代を作りだしていったのであった。

しかし、鎌倉時代が、いつから始まったのかについては、必ずしもはっきりした統一された考えがあるとは言えないのが、現実のようである。即ち、頼朝が鎌倉入りした治承4年（1180）、頼朝が後白河法皇から守護地頭の設置を許可された文治元年（1185）、頼朝が征夷大将軍に任じられた建久3年（1192）などが主なものであり、このほかにもあるらしいが、矢張り頼朝が鎌倉に居を構えた1180年とするのが、最も妥当なものではないかと思われる。

こうして、鎌倉幕府は頼朝を初代として武家政権を展開していくのであるが、河内源氏の正統としての幕府は、頼朝の死後その子ら二代将軍頼家・三代将軍実朝の二人とも若くして不慮の死を得て、北条氏を執権とするものに変質していく。そして、元弘3年（1333）、後醍醐天皇による倒幕の意を受けた新田義貞らの攻撃により鎌倉は陥落し、鎌倉幕府は滅亡するに至ったのである。



2019 年度第7回学習会アンケート集計と実施報告

アンケート集計

『軍記物語と鎌倉』

講師：平藤 幸氏

出席者		一般会員	委 員	計（出席率%）	ビジター	計	アンケート（提出率%）
	男	54	9	63(66.3)	0	63	42(63.6)
	女	11	1	12(60.0)	1	13	
計		65	10	75(65.2)	1	76	42/66

1. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェック無し
38 名	4 名	0 名	0 名

- ・講師の声がはっきりしていて語りかける口調が引きつける、大事な所を強調するのもよい
- ・話し方が大変分かり易く、資料との対応、説明も的を得ている、丁寧な資料作成に感じ入ります
- ・滑舌も良く、非常に聞き易かった
- ・理解しやすい話しぶりだった
- ・説明がよかった
- ・豊富な資料に基き、テンポ良く進められ、よく理解できた
- ・レジュメを大量に用意され、しかも易しく解説して下さいました
- ・資料も詳しく、説明も解り易かった
- ・話が分り易く、面白かった
- ・資料のページに行数が入っており、わかりやすかった
- ・資料の示し方がとてもわかりやすく、又弁舌さわやかで聞きやすかったです
- ・資料が非常に充実していた
- ・わかりやすく楽しい話でした
- ・分り易かったです
- ・熱心な語り口で大変わかりやすかったです
- ・講談でも聞いているように、歴史が良く分った
- ・説明が判りやすく、声もよかった
- ・豊富なレジュメを説明しながらの、聞きやすい声などで概要に聞き入った。ぜひ再登壇を期待しています
- ・講演スピーチの中で資料の引用がみごとで大変わかり易い
- ・資料のみやすさは大変助かり、よく理解出来ました。時代を順々に話され、判り易くて楽しい時間でした。声も大変聞き易くて、いつ迄も聞いていられます
- ・面白かった。もう少しゆっくり聞きたかった
- ・平家物語をもっと時間をかけて聞きたかった。テーマを細分して講演をお願いしたい
- ・源平の話、特に源氏の鎌倉に根付いた行きさつなど大変良く判りました
- ・源氏の流れがよくわかった。鎌倉の推移のはげしさがわかった

- ・大変よかった。鎌倉の歴史が良く理解出来ました。機会がありましたら、又講座を聞きたい
- ・歴史本をわかりやすく説明いただき、源氏が鎌倉を選んだ理由がよくわかった
- ・豊富な知識と詳細な資料が大変参考になりすばらしい講演でした。源氏の原点が良く理解出来ました
- ・①先達の引用を交えた進め方に女性講師らしいきめ細かさがあり、理解しやすかった ②講談風(?)で退屈なく聞けた
- ・女性で「軍記物語」とはすごい。頼朝が部下を大切にしたりした事が良く判った
- ・軍記物語はおおよそ分っていたが、古典から説きおこした講演は初めてで面白かった
- ・なじみのない「軍記物語」に触れられ、たいへんよかった
- ・複数の「軍記物語」をつないでの説明は非常に理解し易かった
- ・軍記物は始めてだったが、大変わかりやすく、おもしろかった。資料もわかりやすく表記されていた
- ・軍記物が歴史書としての役割をもっていることを改めて再確認した。(果して史実としての価値があるか否かはわからないが)
- ・分かり易く軍記物語への思いが伝わわる良い内容でした
- ・多数の軍記物語他を抜粋しコンパクトにまとめ説明され分り易かった
- ・日本史の本流とは別の東国史の黎明を網羅的に示して戴いた。諸々の文書を一つのストーリーとして理解し易い講演でした
- ・相変らず盛沢山の資料で、説明も明瞭で大変良かったです。鎌倉クライマックスも名調子なり。夫々の提示資料を再検討して Study したい。愚管抄、増鏡、金槐和歌集、承久記等々Study も大変だ！

2. 平藤講師に希望する講演テーマについて

- ・平家物語の背景と現代
- ・平家物語(3人)
- ・文学作品、源氏物語等も講演して頂きたい
- ・2020年講座を楽しみにしています
- ・平家物語のみ
- ・続編～ぜひ
- ・再度の講演期待します
- ・何故鎌倉が武家の中枢地となったのか、教えて頂きたい。軍地的、政治的にどの様に重要だったのか知りたい
- ・「与一射扇」について
- ・来年度も楽しみにしています。軍記物語を様々な角度で紹介いただきたい
- ・東国から見た日本通史
- ・中世文学についてもう少しお聞きしたいです
- ・又軍記ものをおねがいします
- ・歯切れのよい語り口がとてもよかったので、テーマは特に出せないが又、来年度講演していただきたい
- ・鶴見大で「平家物語」の平藤先生(講師)の講義受講歴あり。吾妻鏡でテーマを絞った(人物、事項等)内容で講義して欲しいが。太平記は専門外？
- ・「承久記」をお願いします
- ・中世の鎌倉と金沢に特化した講演を望む、平藤先生のお考えで.....
- ・軍記物語からみた講演は面白いところみ、もう少し丁寧にゆっくりと話を聞きたい

3. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェック無し
16 名	17 名	1 名	8 名

- ・わかりやすいお話をされる講師を見付けていただき、ありがとうございました
- ・先生の面白い話、評価
- ・もっとゆっくり学びたかった、かけ足でもったいないと思った
- ・公開歴史講座や継続会員の金銭取扱い等を含めながらの学習会開催は大変御苦労様でした
- ・“継続会員の受付”“特別講座受付”ともスムーズ
- ・いつもスムーズに流れる受付業務が実はスゴイ！！事なんですよ、また来年もよろしくお願いします
- ・事前の準備に要する時間が短くて、早く入場できた。年会費及び公開講座の申込み、集金がスマートに行われた
- ・大変段取りが良いと思います
- ・ご苦労様です、ありがとうございます（4 件）
- ・申込手続き大変です
- ・講座内容と探訪企画共に興味深く参加している

4. “わ”の会について

- ・更なる金沢・鎌倉の中世史の深掘りを ！
- ・前は東国の戦国時代、今回は保元・平治時代(それぞれ面白い話でしたが)、将門の乱、前九年、後三年、奥州藤原等々一つの東国通史としての繋げを希望
- ・常に新しい人材を運営委員に加えていって下さい

運営委員会の意見・感想

判りやすい、聞き易い、資料が充実かつ見易いと殆んどのコメントが絶賛です。

資料に行数を付記して有るのは私の経験では初めてで、実に見易い。

受講者の立場を良く理解している配慮ではと感じました。

次の講演を期待しますとの声、来年度の依頼をして良かったとの実感とテーマも平家物語が主体的に希望され、学習会の設定に苦慮している実情を考えますと誠に嬉しい事です。

長享の乱、永正の乱等はそれなりに面白いテーマでは有りますが、講演を聞いてのインパクトは今一つなのかなとも感じました。

テーマの選定に今後一層配慮が必要と感じました。

7回の定期講座の締め括りとしても、実に良い学習会でした。

“わ”の会代表 内田 孝知 記



わっ！おもしろい金沢（2）：波の伊八が彫った龍

“わ”の会 会員 工藤 君明

昨年（令和元年）11月22日に、「寺社を巡る会」の特別探訪「房州の寺を巡り 波の伊八の作品を巡る」に参加しました。昨年5月に開催された“わ”の会の総会後の第1回学習会「葛飾北斎の波の絵から長浜千軒伝説を解く」において、講師の平山次清会員が、北斎の代表的な浮世絵「神奈川冲浪裏」は西洋の絵画に大きな影響を与えたが、北斎もまた同時代に活躍した天才的彫刻家「波の伊八」の影響を強く受けていたことを紹介しておりました。そしてそのときのアンケートに、秋に予定されている「寺社を巡る会」のバス探訪で房総行元寺「伊八」見学が楽しみになったという意見があり、そのような企画があることを初めて知りました。私はそのサークルの会員ではありませんでしたので、その後のことは知らずにいたのですけれども、随分経ってから、バスの席に余裕があるからと誘われ、幸いにも参加することができたのです。

実は「波の伊八」の彫刻のことも、それが北斎の波の絵に影響を与えたことも、ずっと前から知っておりました。私も平山会員と同じく、船舶工学の出身であり、海洋波浪の研究者であったことから、機会があったら「伊八」の波の彫刻を一度はじかに見てみたいとずっと思っておりましたが、なにせ横浜からは東京湾の反対側にある寺ですし、さらに交通不便なところにあるらしいということでしたので、なかなか訪ねていく機会はありませんでした。また、彫刻などは写真などでも見ることができますので、わざわざ出かけていくこともないかと諦めておりました。

しかし今回、バス探訪に参加して、飯縄寺（いづなでら）の欄間彫刻「天狗と牛若丸」とその左右にある彫刻「波と飛龍」を拝観し、また行元寺では、北斎の「神奈川冲浪裏」と構図がそっくりな伊八の欄間彫刻「波と宝珠」をじっくりと堪能することができ、絵や写真ではわからなかった伊八の迫力を感じることができたことは幸いでし

た。やはり実物が与えてくれる感動は半端なものではありませんでした。欄間の透かし彫りですから、裏にまわっても、伊八は几帳面に、また丹念に彫っており、鬼気迫るものを感じることができました。

1. 波の伊八

伊八の彫刻に多くの人が感動しておりました。寺の人の説明によると、「波の伊八」は1751年に安房の国（現在の千葉県鴨川市）に生まれた武志伊八郎信由であり、10歳のころから彫刻の修行を始め、宮彫り師「伊八」の初代となった人物です。21歳のときに、妙法寺（東京都杉並区の高円寺近くにある日蓮宗の寺）の祖師堂の正面に作った龍五態という大型の彫刻が残されており、以降、伊八は七十代に至るまで、数多くの木彫り彫刻を残しました。



妙法寺の祖師堂（東京都杉並区）の正面上部
龍の彫刻は初代伊八 21歳の作（1772年）

飯縄寺の本堂欄間にある透かし彫り「波と飛龍」（1796年）は45歳のときの作品であり、流動する波を立体的に捉えたものですが、まだ飛龍に重点が置かれています。行元寺の旧書院の欄間にある透かし彫り「波と宝珠」（1809年、伊八の波）は55歳の作品ですが、飛龍はなく、ダイナミックな波のなかに宝珠がところどころ浮かんでいるというものになっています。

初代伊八が、あの世界的に評価されている北斎の浮世絵に影響を与えたのだから、だれもがすばらしいと口々に言うのですけれども、「波の伊八」がどうして波を彫ったのかと問う者は、寺の人にも見学者にも、だれもおりません。とはいえ、どうしてもはだれにもわからない疑問です。無骨な彫刻家は作品を残すだけですから、作家の心は推察するしかありません。しかしせっかく「波の伊八」の実物を拝見したので、北斎に影響を与えた「あの伊八」ではなく、伊八自身の心情を推し量ってみなければと思った次第です。

「波と飛龍」の彫刻がある飯縄寺は、外房のいずみ市の北端である太東崎の近くにあります。2020年東京オリンピックのサーフィン会場のすぐ南です。そこはまた九十九里浜の最南端部との境でもあり、伊八は馬に乗って海に出ていき、打ち寄せる九十九里浜の大波を横から、下から、いろんな角度から間近に観察していたとされています。飯縄寺の欄間に描く波を少しでも迫力のあるリアルなものにするためだったのでしょう。ですから、伊八の波は九十九里浜の波であり、葛飾北斎の波も九十九里浜の波を借用してきたものということになります。北斎の「浪裏」は、金沢沖だとか、本牧沖だとか、いや木更津からの眺めだという論争は、まったく無意味なことでした。北斎は、神奈川沖あたりから眺めた富士と、波は伊八の九十九里浜の波を、船は本牧あたりで使われていた押送船を配置して、コラージュにしたというのが妥当なようです。

2. 伊八はどうして波に魅せられたのか



飯縄寺（千葉県いずみ市、太東崎灯台下）
本堂の欄間にある初代伊八（45歳）の彫刻（1796年）
上：正面にある「天狗と牛若丸」（牛若が天狗から秘伝の巻物をもろう）
下：左右二面にある「波と飛龍」の右側

私は工学系の研究者出身ですから、疑問の答えを見つけるやり方は、歴史家の研究の仕方とは違います。もちろん、同じように文献資料に当たりますが、それがすべてではなく、足りない部分はまず仮説を立て、それを検証していくという手法をとります。例えば、生まれて間もない赤ん坊がいるとして、泣いたり笑ったり、さまざまなことをしますが、赤ん坊がなにを考えているのかという疑問に答えることは並大抵ではありません。赤ん坊に訊いたら答えてくれるなら簡単ですが、それは不可能です。かつては赤ん坊の心理学は家政学科の研究分野でした。しかし近年では、ロボット工学が飛躍的に進歩したおかげで、ロボットに知的行動をさせる研究から、赤ん坊の行動が逆に理解できるようになっています。赤ん坊が泣くと周りの大人がおろおろするのを楽しんでいるらしい、とわかってきました。このような研

究方法を、原因を究明していく分析的手法ではなく、構成的手法と呼びます。伊八に訊くことは不可能ですが、伊八の作品の変遷から、伊八がなにを考えていたのか推量することはできるのではないのでしょうか。

伊八が二十代初めに妙法寺の祖師堂に製作した作品は龍です。若者の覇気に満ちた龍であり、若くして既に一流の宮大工として評価された作品です。昔から、神社仏閣の彫刻というと、めでたい鶴や亀、鳳凰や飛龍でした。伊八は彫り師として龍をせっせと彫っていたことでしょう。ふつうの彫り師なら、それで一生を終えることができました。しかし伊八は違いました。鶴や亀は生きた実物があり、それを観察すれば、いくらでもリアルなものが彫れます。しかし、龍は空想の生き物です。どんなにリアルに描こうとも、実物がないのですから、リアルになるわけがない。まさかトカゲをモデルにするわけにもいかない。そこで伊八は悩みに悩みぬき、ついに考えた。「波と飛龍」の波は龍であると。大波のうねりは龍の飛翔であり、いまにも砕けんとする大波は龍の爪であると思い至ったのです。

伊八は飯縄寺の「波と飛龍」から13年後に行元寺の書院の欄間に「波と宝珠」を彫ったとき、龍をまったく省いてしまった。これは、本堂の形式に縛られることなく、自分の芸術を作ったからではないのでしょうか。本堂ならば、知らない者がお参りにきて、龍がいないと文句を言うかもしれませんが、書院ならば、自分の好きなままに描くことができた。そして、龍がいないのではない、あの波が龍なのだと伊八は言いたかったのではないのでしょうか。

そう考えてみると、腑に落ちることがあります。「波と宝珠」では宝珠が波



葛飾北斎「神奈川冲浪裏」(1831~33 年ころ)
東から見た富士山、九十九里浜の波、本牧沖の押送船三艘、大波の手前に波の富士山が描かれる、なお浪裏とは、大波を裏から見上げる、という大胆な構図という意味です



葛飾北斎「押送り波濤通船の図」(1805 年)
大波は「浪裏」に比べてまだ稚拙で、砕ける波の躍動感はないけれども、同じ構図となっている



初代伊八「波と宝珠」(1809 年)
行元寺旧書院の欄間透かし彫りの一部
(全体は縦 50cm、横 175cm の両面彫り)

の上に浮かんでいます。宝珠とは、それを手にすればどんな願いも叶い、欲しいと思う宝物を意のままに作ることができる宝の珠のことです。まん丸ではなくて、橋の欄干にある擬宝珠のように、下部が丸くて、上部が山なりに尖っています。如意輪観音などが手に持ち、また龍神の像が手に持っています。伊八が彫った妙法寺祖師堂の龍は手に大きな宝珠を握っています。まるで宝珠を持っているから龍が空を飛べるようになったかのよう。その宝珠がどうして波の上に浮かんでいるのか。伊八の作品でも珍しい組み合わせです。しかし、伊八の描く波が龍だと解釈すれば、疑問はたちまち解消されます。「波と宝珠」では、大きな宝珠、小さな宝珠が波のあちこちに散らばっています。たくさんの龍が遊んでいる図を伊八は想像していたのではないのでしょうか。

欄間に龍を彫るだけだったら、伊八は単なる彫り師にすぎませんが、「波と宝珠」で伊八は芸術家になったといえるのではないのでしょうか。だからこそ、北斎は伊八の波に感動したのではないのでしょうか。だからこそ北斎の波に世界は感動するのではないのでしょうか。

3. 波はどうして左から？

葛飾北斎の「浪裏」の波は向かって左から波がやってくる構図となっています。どうしてか、というと、伊八の「波と宝珠」が左からくるから、それをまねたのだろう、大波の形もそっくりだし、と思っておりました。ただし、そっくりまねただけではなく、細かいところでは違いもあります。北斎の波頭は碎けて飛沫になっていますが、彫刻ではそこまでリアルには作れない。また北斎では大波の手前に大きな盛り上がりがあり、遠くに見える富士山が海のなかにもあるように描かれています。伊八の頭のなかに富士山はそもそもなかった。しかし両者の波の大きな構図はそっくりとあっていいでしょう。北斎は伊八の構図をそっくりまねたのだろうか？

ところが、北斎は伊八の「波と宝珠」より数年早く、「浪裏」とほぼ同じ構図で、「押送り波濤通船の図」（1805 年）を描いておられます。大波は

やっぱり左からきています。ということは、伊八にしろ、北斎にしろ、波は左からくるという考えが共通してあったといえるのではないのでしょうか。当時の常識であったのかもしれませんが。

どうして波は左からこなければいけないのでしょうか。作者にとっては波がどちらから来ようと関係ないのかもしれませんが、その彫刻なり絵なりを観る者にとって、どちらから来るのがいいのかという問題になります。観る者に安定感を与える方向なのかもしれません。日本人は、なんでも左から入ってくると安心するようです。芝居の舞台を考えてみてください。観客席から見て、右側に主人などが偉そうに座っていて、客人は左から入ってきます。これが逆になると、観ている日本人は不安になります。この感覚は日本人独特のものなのか、世界共通なのかはわかりませんが、北斎の浮世絵に感銘を受け、「パリの浮世絵師」といわれた画家アンリ・リヴィエールが北斎の「浪裏」を思わせる絵を描いており、それが右から来る波となっているとするのは、単なる思



アンリ・リヴィエール「ノートルダム寺院より」
ニューオータニ美術館刊「アンリ・リヴィエール（エッフェル塔三十六景）」より
北斎の「浪裏」を思わせるが、左右が逆になっている、意地でひっくり返しただけなのか、フランス人には波は右から来る方がいいのか

い過ぎでしょうか。

4. 北斎の富士山

「神奈川沖浪裏」の富士山は本牧沖あたりから眺めたものであるとされています。富士山はどこから眺めても富士山ですけれども、季節により、また場所により、わずかに異なります。裾の風景も違います。また、富士山の山頂の形は仔細に見ると違いがあります。真東にある横浜方面から眺めると、中央に三角のある三峰形をしています。

北斎の「富嶽三十六景」は、富士山が見える各地からの眺めを描いています。主に江戸周辺から眺めた富士山を遠景にしております。それから東海道に沿って西へ、また甲州街道に沿って北側からの眺めもあります。富士山の頂上は場所によってそれなりに違ってはいますが、必ずしも実際の形と合っていないようです。ということからすると、北斎は、頂上の形が違っていることを認識していたが、あんまりこだわってはいなかったようです。「神奈川沖浪裏」では、江戸から眺めた富士山を使ったのではないのでしょうか。

伊八は73歳で亡くなりますが、その一年前に称念寺（千葉県長南町千田にある浄土宗のお寺）の本堂の欄間三面に龍三体を丸彫りしております。若い頃に宮大工として龍を彫り、波をテーマに造形し、最晩年に「波の伊八」となって波の上に踊る龍を彫り、伊八は生涯を終えました。またいつの日か、伊八の最初と最後の龍に巡り会えることを願っております。

参考資料：伊八の作品については、各寺のホームページなどを参考にしました。また伊八と北斎の

関係などについては、栗原浩太郎著「伊八、北斎からドビュッシーへ 一日仏文化交流の麗しき円環」（三省堂、2014年）を参考にしました。



富士山の最高地点は剣ヶ峰の3775.6m、富士山の山頂は見る方角によって形が微妙に異なる、北：白山岳を中心とする三峰形、東：左に宝永火口・右に吉田大沢・中央に三角、南：山頂左端に剣ヶ峰・中央に三角、西：右端に剣ヶ峰・中央三角の右側に大沢崩れ



北斎「浪裏」の富士山の拡大図、中央に三角が描かれている、東の方から眺める典型的な形



称念寺（千葉県長南町千田）の本堂欄間にある龍三体
「波の伊八」最晩年の作品（72歳、1823年）

『寺社を巡る会』活動記録 令和元年度第7回～第9回

第7回 太田道灌が攻めた小机城址

開催日：令和元年11月7日（木）

参加人数：男性24名（内ビジター1名） 女性9名（内ビジター1名） 合計33名

コース：JR横浜線小机駅（集合）→雲松院→本法寺（開扉）→金剛寺（法話）→横浜国際総

合競技場（遠望）→つるみ川流域センター（見学・昼食）→小机城址→金剛寺門前（解散）

運営委員の都合により大変少ない人数で案内の担当をさせていただきましたが会員の近藤様、飯富様の助けを頂き、また沢山の会員の参加で3班に分かれNPO法人神奈川区いまむかしガイドの会の方々に案内していただく。

雲松院 曹洞宗

大永4(1524)年頃に小机城城代の笠原越前守信為が父能登守信隆追善のために開基。山号「臥龍山」は現在地が龍の住かの池であったことによる。丘の上の見晴らしの良い地に笠原氏一族の墓がある。

本法寺 日蓮宗

天正の初め(1575頃)小机村に移転。鶴見川の大氾濫で堂宇流失などを経て江戸時代後期の文政年間(1800年代初め)に現在地に本堂が完成。「石造龍吐手水鉢」がある。清楚な佇まいで立派な鐘楼もある。

金剛寺 曹洞宗

本尊は薬師瑠璃光如来坐像、行基作と伝えられている。天明6(1786)年雲松院第十九世住職により開山。堂宇は再三火事に遭い現在の本堂は昭

和60年に再建された。武南十二薬師7番札所である。住職より大変貴重な法話をお聞きする。その中で、きれいな花を褒めるならその下で頑張っている根を褒めろとのお話だった。そこから先日の大いに興奮したワールドラックビー決勝戦の日産スタジアムの大変立派な建物が一望できた。

つるみ川流域センター

平成15年にオープン、国土交通省の管轄で管理し鶴見川の歴史、生き物などを知ることが出来た。今年の台風19号で鶴見川は増水したが游水地の活用で水害被害を回避できた。会議室をお借りし昼食をとる。

小机城址

大変歴史のあるお城で、文明8(1476)年関東官領上杉氏家臣長尾景春の乱で長尾方矢野兵庫助が籠城。これを太田道灌が攻め落とした後、廃城となった。50年後の後北条の時代に改修され、中世平山城の遺構として残る。土塁、空堀等、後北条の城郭技術の巧みさを後世に伝えている。

(瀬川 健次 記)



医王山金剛寺 本堂



小机城址 本丸広場

第8回 本牧山頂公園と紅葉の三溪園散策

開催日：令和元年12月5日（木）

参加人数：男性22名 女性8名 合計30名

コース：山手駅前(集合)～本牧山頂公園～本牧神社～三溪園（昼食）/外苑・内苑見学/(解散)

山手駅を出発し、本牧山頂公園を目指して住宅の間の坂道を登っていくと、YC&AC横浜カントリー&アスレチッククラブがあった。明治元年（1868）、スコットランド人の貿易商ジェームス・ペンダー・モリソンが中心となり会員制の「横浜クリケット・クラブ」として創設された。

アメリカ坂、貝殻通りを横目に見ながら公園入口へ、本牧山頂公園は米軍接収地の住宅地区が昭和57年（1982）返還され、横浜市が整備し平成10年（1998）に開園した。広さ約22ha、頂上付近は見晴らしがよく港町横浜を思わせる風景が広がっていた。レストハウスがあり暫し休憩をする。

坂を下っていくと本牧神社に着く。元は本牧十二天社と称し、創建は建久3年（1192）、または弘長3年（1263）など諸説あり、本牧の総鎮守だった。接収により仮遷座していたが、平成5年（1993）現在地へ遷座した。祭神は大日靈女命（おおひるめのみこと）（天照大神）。永禄9年（1566）から続く「お馬流し」の神事（県無形民俗文化財）が毎年8月に行われる。富岡八幡宮の神事、祇園舟と似た神事である。御馬流し資料館を見学、萱で編んだお馬が展示されていた。

20分ほど歩き三溪園に到着。生糸貿易により財を成した実業家、原三溪によって、明治39年

（1906）市民に公開された庭園。国指定重要文化財10棟、横浜市指定有形文化財3棟など多くの建物が移築されている。

全員が濱ともカードなどシニア証明証を提示して入園。旧原家住宅の鶴翔閣前で簡単な説明を受けた後に園内ベンチで昼食をとった。昼食後は順次園内の建造物などを巡ったが、以下には主なもののみを記す。

最初は旧矢筈原家住宅、唯一内部見学ができる建物である。江戸時代後期の白川郷にあった合掌造りの建物で、内部は農家ながら豪勢ぶりがうかがわれる造りである。旧燈明寺本堂や旧東慶寺仏殿など外苑を巡り内苑に入る。臨春閣は紀州徳川家の数寄屋風書院造りの別荘建築、普段は池越に優雅な姿を見せるが一部工事中は残念であった。奥の聴秋閣は京都二条城内にあったと言われる徳川家光、春日局ゆかりの楼閣建築。この辺りは紅葉の映える場所でもあるが、今年は台風による塩害の影響もあるように伺われた。

最後に三溪園の創設者・原三溪に関する資料や、ゆかりの美術品などを展示する三溪記念館に立ち寄った後、園内で解散しバス停まで歩き帰途についた。

（横山 美智男 記）



本牧神社 本殿



三溪園 聴秋閣

第9回 六郷の渡しから参詣道を川崎大師へ

開催日：令和2年1月10日（金）

参加人数：男性26名 女性6名 合計32名

コース：京急六郷土手駅（集合）→六郷の渡し跡→北野天神→新六郷橋→明治天皇六郷渡御碑
→万年横丁→徳泉寺→京急港町駅→医王寺→イトーヨーカドー（昼食）→池言坊→
若宮八幡宮・金山神社→馬頭観音堂→明長寺→川崎大師（解散）

大師道をたどって川崎大師に参詣するというのが今回のテーマである。配布されたレジュメを見ると、ガイドポイントが非常に多い。つまり、江戸時代から盛んに人が行き交い、この界隈が賑わっていたということだろう。

まず、京急六郷土手駅に集合し、第一京浜（国道15号線）の手前まで移動して、スタートとなる。ここは、六郷の渡しのあった所。江戸時代初期には、橋が架けられていたが、洪水で度々流されたため、渡し船が明治初期まで用いられてきた。鉄の橋ができたのは大正末で、その橋門と親柱は近くの公園に残されている。現在の橋は昭和末期に架け替えられたもの。

その隣にあるのが北野天神。徳川吉宗が騎乗していた馬が暴走したとき、この天神様のご加護で馬が静まったので「止め天神」と呼ばれる。暴れたのは馬の方のようである。

堤防に上がり、新六郷橋を渡る。歩いてみると、多摩川の河川敷の大きさを実感する。600メートルほどもあろうか。実際に水が流れているのは、川崎側の50メートルほどである。昨年秋の台風19号では、この広大な流域が雨水で溢れ、越水したという。今でも流木の残骸が残っている。

対岸は六郷橋駅のあった所。ここと川崎大師を結んだ大師電気鉄道が京急の始まりである。

川縁に戻ると、明治天皇六郷渡御碑がある。明治天皇御東幸のときは、川舟23艘を並べて舟橋を造り、鳳輦で渡御したという。また、このあたり一帯では、江戸時代から果実が栽培されており、梨の「長十郎」はここで発見されたとのこと。

「万年横丁・大師道跡」と彫られた石柱のところを左に入っていく。

江戸時代末期、庶民の旅行が盛んになる。ガイドブックなどもあり、各地の名物や名店などが紹介されていたようである。神奈川宿では「さくらや」がそうであり、川崎宿では「万年屋」の奈良

茶飯がそうだったようである。万年屋のあったところから医王寺までの道を万年屋の当主が整備したので、万年横丁と呼ばれたとのこと。

川崎は江戸時代には宿場町として栄えたが、東海道線などが開通するようになるとその勢いを失う。それを危惧した川崎宿の地主や豪商らは工場などを誘致する。その最初が横浜製糖川崎工場（現かわさきテクノピア）で、横浜港で水揚げした材料を多摩川の水運でここまで運び、砂糖を出荷したという。初代川崎市長の石井泰助（川崎宿の材木商）も工場誘致に尽力した一人で、現在の工場地帯の礎を築いたという。その墓が徳泉寺（浄土真宗）にある。

徳泉寺を左折して、港町駅に出る。この改札口には「港町十三番地」の歌碑がある。美空ひばりの等身大の姿とレコードのジャケットが工場の巨大な写真を背景に描かれている。思わず、曲を口ずさむ方も…。ここ（川崎市港町）には日本コロンビアの本社と工場とがあったとのこと、その曲名もここに由来するという。

左折して、多摩川に出る。ここにあるのが高規格堤防、通称スーパー堤防である。民主党政権の事業仕分けで廃案となったものの、自民党政権で復活したとのこと。堤防の幅が数十メートルあり、タワーマンションが3棟そびえている。

大師道（国道409号線）の歩道橋を渡り、医王寺（天台宗）へ。多摩川は田畑よりも低いところを流れているので、その水を直接農業に利用することはできない。そのため、上流で取水し、稲毛領を経て川崎領に送る用水が築かれていた。江戸時代末、水飢饉が起り、稲毛側で水を止めたため、この寺の鐘を合図に、川崎の農民数千人以上が集まり、溝口村に押しかけ、名主の屋敷を打ち壊したという。この鐘楼のそばに池があり、鐘の音が住み着いているカニを鷺から守っていた。あるとき、近くで火災が起きたとき、ここのカニ

が多数、鐘楼にのぼり、泡を吹いて延焼を防いだという。そんな言い伝えをもつ寺でもある。ただし、現在の鐘は戦後に再鑄されたものである。

大師道に戻る。南側の歩道がかつての堤防で、大師線が走っていたとのこと。鈴木町入口の交差点を左折し、イトーヨーカドーへ。ここのイトインで昼食をとる。

再び、大師道に戻る。すると、あちこちに「味の素」のビルがあることに気付く。「鈴木町」は「味の素」の創設者 鈴木三郎助に由来するという。しかし、鈴木三郎助というと、家族を助けて、葉山で海藻を焼いていたところの方に親近感を感じる。

右折して池言坊へ。池言坊とは池上家の墓所である。日蓮は病を得て湯治に向かう途中、御家人の池上家で入滅する。その地が池上本門寺となり、江戸時代、池上家の子孫が大師河原に移住して、新田開発を行ったとのこと。

さらに進むと、右側に若宮八幡宮（祭神は仁徳天皇）と金山神社（同 金山比古神）がある。金山神社は大師線延長のために、この地に遷された。

平間寺（真言宗智山派、通称 川崎大師）は、平安時代末にある漁師が夢のお告げで海中から引き上げた弘法大師像を祀ったことに始まる。このため、寺は海に向かって建つ。この道をまっすぐ進めば 川崎大師に至るが、裏側となる。そのため、ここで右折し、川崎大師駅に出て、表参道に入る。松の内は過ぎたものの、参道は 多数の参詣者で溢れている。

途中に馬頭観音堂がある。江戸時代には、ここで下馬し、右折したという。その先にある明長寺（天台宗）には、大坂夏の陣での手柄で家康から賜ったという「辻が花染小袖」が所蔵されている。

右折し、仲見世へ。飴を切る（俎板を叩く）音が小気味いい。60 年前と変わらぬ風景である。久寿餅と厄除け饅頭、咳止め飴、そしてダルマを買ってもらったものである。

久寿餅は川崎大師の名物である。江戸時代末に大師河原村の久兵衛が偶然作出したもので、久兵衛の「久」と「ことぶき（寿）」を合わせて「久寿餅」と書くのだという。しかし、くず餅は、亀戸天神社や池上本門寺などでも名物となっているようである。ただし、いずれのくず餅も、原料は 葛粉ではなく、小麦粉である。

山門をくぐる。この山門は 昭和 52 年に建立されたとのこと。それ以前の山門は不動堂門として使われているとのこと。参詣客でごったがえす中、大本堂で早々に参拝を済ませる。不動堂の前を通り過ぎ、「しょうすかの婆さん（奪衣婆）」で最後のガイドを聞き、信徒会館で解散となる。

振り返ってみると、坂道が全くない寺社巡りだった。当会としては珍しいことである。今年は暖冬とはいえ、天候に恵まれ、寒さをあまり感ずることなく歩けたことも幸いだった。また、あまり接する機会のない大師道周辺の話の聞いたこともありがたかった。なによりも、正月早々、関東三大厄除け大師の平間寺に参詣できたので、今年は何かよいことが起こりそうに思うのは、私だけだろうか。

（田野実 裕之 記）



医王寺（天台宗）本殿



川崎大師 本殿

『房州の寺を巡り 波の伊八の作品を巡る』

今回の探訪の目玉は、「波を彫らせたら天下」とうたわれた名工「波の伊八」の作品の拝観である。あの葛飾北斎の名作「神奈川冲浪裏」にも影響を与えたともいわれている。大いに期待をそそられる企画である。そのためか、女性やビジターにも多数参加していただき、総勢46名（女性18名）での探訪となる。11月22日ほぼ定刻に金沢文庫を出発。幸浦ICから首都高速に入り、アクアライン、圏央道を経て千葉県いすみ市に向かう。しかし、まもなく雨が降り出し、海ほたるの展望台から見えるのは、眼下の海と白波ばかり。遠景はもやに沈み、しかも寒さが身に染み、先が思いやられる。

約2時間半で最初の探訪地 清水寺に着く。本降りの中 長い坂道を上り、仁王門で雨宿りをしながら、地元ガイドの話を聞く。まずは、「いすみ」の紹介から。いすみには、神社が60社、寺が70山もあるとのこと。6世紀頃は「伊弉^{いじみ}」（後に「夷隅」）と書かれ、あわびや真珠を朝廷に納めていたという。逸話が続く。



清水寺 仁王門にて

平安時代末には、上総広常配下の平忠清がこの地より出て、平家方として活躍するが、平家滅亡後捕えられ、斬首されることとなる。観音菩薩に帰依していた忠清の首が源頼朝に届けられると、そこには、ばらばらになった観音像

が納められていたという。それを分けて、京都の清水寺と兵庫の清水寺とここに納めたので、この三山を「日本三清水」というのだという。それで、ここにはその観音像のお顔と両手が納められた箱が奥院堂に安置されている。ガイドより示されたその写真は、やはり、痛ましいお姿である。頼朝も観音様に帰依していたので、これがきっかけとなり、坂東三十三観音霊場の整備を発願したとのことである。

音羽山清水寺（天台宗、本尊：千手観音）

延暦年間（782-806）に伝教大師（最澄）が結んだ庵に始まり、師の意思を継いだ慈覚大師が千手観音を刻んだという。坂東三十二番札所。本堂は1813年に焼失し、1817年の再建。奥院堂は1814年に本堂の仮堂として建立されもの。この堂の本尊は十一面観音。房総で一番美しい観音像とのこと。開扉は年に一度。



清水寺 本堂

明王山飯縄寺^{いづな}（天台宗、本尊：飯縄大権現）

808年、慈覚大師による開山。天狗の寺としても信仰を集めているとのこと。

飯縄権現とは、信濃の飯縄山への山岳信仰を発祥とする神仏習合の神で、剣と索をもつ烏天狗の姿で白狐に乗っているという。甲斐から移った武田氏によって伝えられ、この地にも広まったとのこと。1630年頃に山上から現在地に

移り、1703年の元禄地震では海に浸かったとのこと。江戸時代初期に本尊を迎えて「飯縄寺」と改め、現在に至るという。



飯縄寺本堂正面に掲げられている面

本堂にあげていただき、住職から説明を受ける。内陣前には「江戸請中」と書かれた賽銭箱がある。2畳もある巨大さである。

ここの結界欄間は、伊八壮年期の最高傑作の一つと言われている。中央の「天狗と牛若丸」は、天狗が牛若丸に免許皆伝の巻物を授けているところだという。躍動感といい、立体感といい、彫の繊細さといい、素晴らしいものである。その左右にある動と静の「波と飛龍」も見事なものである。



飯縄寺結界欄間 中央（天狗と牛若丸）

外陣の天井には龍の墨絵があり、内陣には52個の天井画がある。これらは葛飾北斎の師として知られる堤等琳が描いたものとのこと。合わせて、53枚。この53という数は特別な意味があるという。

華嚴経によると、善財童子が文殊菩薩の勧めで53人の善知識を尋ねて修業を積み、普賢菩薩のところで悟りを開いたという。東海道53次の「53」という数もこれに基づくとのこと。

住職の話や説明に謝意を述べて辞する頃には 雨は土砂降りとなり、バスに戻ったときにはズボンから雨水が滴り落ちる状況だった。



飯縄寺結界欄間 左側（波と飛龍）

東頭山行元寺（天台宗、本尊：阿弥陀如来）

「九十九里ピラソとぼう」で昼食をとり、行元寺に向かう。やや小降りになった中、ここでも長い坂を上る。



行元寺参道にある説明板

本堂にあげていただくと、日光の東照宮のように豪華絢爛に彩色された結界欄間と柱に驚かされる。同時に、我々の参拝に先立ち、本堂を温めておいてくれた気配りに感謝する。本堂は、2列46個の椅子を置いても余りあるほどの広さである。

すると、あちこちで「大三元？」との声が…。しかし、これは右から「元三大師」と読む。延暦寺を中興した良源のことで、正月3日を命日にすることからそのように呼ばれる。佐野厄除け大師の大師とは元三大師のことで、一昨年、探訪した深大寺でもその供養が行われている。

849年、慈覚大師が東国で最初に草創した寺であることから「東頭山」と号し、「三学院

無量寿寺」と称したという。その後、度々の戦火で焼失し、復興した二階堂行元の名をとって、「東頭山無量寿院行元寺」と改めたとのこと。

住職が外出中で、檀家の方から説明を受ける。

まずは、慈覚大師。松島の瑞巖寺、平泉の中尊寺と毛越寺、山形の立石寺（山寺）などを開いた高僧（第3代天台座主）とのこと。関東に209寺、東北に331寺余を開いたという。

次いで、欄間彫刻や柱。日光東照宮と同様に絢爛豪華なのは、日光東照宮がここをもとにして造営されたためとのこと。彩色の顔料には、ラピスラズリ（瑠璃）やクジャク石（緑）が使われているとのこと、目の前でラピスラズリの原石に光をあてて見せてくれた。実に澄んだ美しい色である。透明度の高さは、純度が高いことの証左だという。黒色を出すのには漆を30回以上塗り重ねるとのこと、塗り重ねで色合いが変化していくサンプルを触らせていただく。滑らかさを実感するとともに、「漆黒」の意味を知る。また、横から欄間を見せていただき、その彫りの深さが20cm以上あることを知り、重厚な立体感があることにも納得する。



行元寺結界欄間彫刻「牡丹に錦鶏」

江戸時代には、上総・安房に末寺96カ寺を有する大寺院として、関東天台の中核をなしたという。そのため、学問や修行の場として、本堂が拡張されたとのこと。宝暦年間に修行僧に使われた机も数脚残されている。本尊の阿弥陀様の前で合掌一礼し、次の堂に移動する。

そこにはL字型に3室あり、その欄間彫刻3対が伊八の彫ったものである。本名は武志伊八郎信由といい、代々名主を務めた家に生まれ、その家系は千葉氏に発するようである。酒を持

って海岸に行き、馬に乗ったまま海に入り、寄せては崩れる波をスケッチしていたという。その集大成が欄間に彫られた「波と鶴」などの彫り物である。著名な「波と宝珠」は、奥の間との欄干に彫られている。裏側から見ても、見事なものである。奥の間には、北斎とともに堤東琳に学んだ五楽院等隋の杉戸絵がある。



行元寺欄間彫刻「波に宝珠」

「神奈川冲浪裏」との関係

葛飾北斎は上総も旅行したという。その目的の一つは師匠や兄弟弟子の作品を見ることで、飯縄寺や行元寺にも来ており、その際に波の伊八の作品を知り、その後の作品に大きく影響を受けたのではないかとのことである。その代表作が「神奈川冲浪裏」。伊八の7回忌をまって、開版されたという。説明の方曰く「この波は九十九里（伊八の作品）のもので、外海の波と内海おしよくりふねの押送船の構図に富士山を配したものだ」と。本牧沖を描いたものとする説には違和感を覚えていたが、この説には納得である。



「神奈川冲浪裏」（葛飾北斎）

気が付けば、20分ほど予定時間を超えていた。いすみのガイドはここまでとのこと、見送りを受ける。次は長南町の笠森寺である。

大悲山笠森寺（天台宗、本尊：十一面観音）

最後の探訪先は笠森寺。坂東三十一番札所。

参道は 階段状の長い坂道のため、参拝を諦め、バスで酒守り（酒盛り？）を決め込む者も。小雨の中、5 分ほど急坂を上り切ったところに、二天門があり、その先に観音堂が見える。

伝教大師（最澄）の開基、後一条天皇勅願による建立と伝えられる。巨岩の頂に建つ観音堂は文禄年間（1592-95）に再建されたもの。4 面とも懸造りという寺はここだけのようである。さらに 75 段の階段を上って、観音堂の回廊へ。そこからは、房総の山々が眼下に眺められ、その景観は一見に値するといわれているが、遠景は雨で全く見えない。ただ境内にあるモミジの紅葉は見事だった。雨の中を参拝にきた我々への観音様のおもてなしであろうか。



笠森寺

帰路

笠森寺を発つ頃から日が次第に傾き、君津の「房総四季の蔵」に着いたときには、真っ暗になっていた。そこで、買い物をして、幸浦 IC へ。それでも、文庫には、予定を 1 時間ほどの遅れで到着し、全員無事での解散となった。

後記

家に着き、歩数計を見てみると、1 万 4 千歩を超えていた。バス探訪にしては歩いたものである。しかも、雨の中を。晴れていればとの思いもないわけではないが、今回のバス探訪に満足されている方は多いのではなかろうか。

その一因は、波の伊八の作品を鑑賞することができたことであろうが、いすみや長南という地域を知ることができたことも挙げられるのではなかろうか。今回は、天台宗の 4 山を訪れ

ただけだが、いずれも素晴らしいものであった。いすみには寺社が 130 もあるという。

また、人物の往来を含め江戸との繋がりの濃さや多くの寺社を抱えることができる財の豊かさにも驚かされた。それらは何によるものだろうか。いすみや長南を含む房総中央部への興味をかき起してくれたバス探訪であった。

豆知識 伊藤忠清

伊藤（平）忠清については、ガイドの説明と異なる説があるので一般的な説を紹介したい。

忠清は 藤原秀郷の末裔で、平氏譜代の有力家人。保元・平治の乱でも活躍し、壇ノ浦の戦いののち捕えられ、六条河原で処刑された。

富士川の戦いでの平家撤退は、軍勢の多寡の極端な差から、忠清が進言したことによるとされる。上総には、配流先として、また上総介として、何度か来ているようである。

その子の景清も多くの伝説をもつ武将で、頼朝暗殺を企てて捕えられ、鎌倉扇ヶ谷の土牢に幽閉される。父の安否を尋ねて娘が来るが、景清はすでに亡く、土牢の上に庵を結んで、その菩提を弔ったという。その娘の墓は、鎌倉内に転々とした後、現在は大町の安養院にある。

豆知識 上総武田氏

飯縄寺で話に上がった（上総）武田氏は金沢とも関連があるので紹介したい。

甲斐の武田信長は 古河公方 足利成氏から上総支配を認められ、孫の代に本家は庁南城（長南町）に、分家は真里谷城（木更津）に本拠を構えた。真里谷氏は次第に勢力を伸ばし、小弓公方（足利義明）を擁立する。しかし、家督争いが起き、弟が里見氏の支援を得て兄を追放する。兄は小田原北条氏を頼って降り、六浦に所領を得たという。その後、北条氏が弟を降伏させ、兄が真里谷城に復するが、その子の代に里見氏に攻め滅ぼされることになる。

（田野実 裕之 記）

「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.28

独自コース 74～76 番 代表 江口 正彦

独自コース 77 番 代表 柴崎 幸治

独自コース 74 番 「西沢溪谷」(通算 155 回)

西沢溪谷は、山梨県の有名な景勝地で、原生林を流れる沢と清流により浸食された花崗岩と、多くの滝が連なる自然の溪谷が美しいことで知られている。「七ツ釜五段の滝」は日本の滝 100 選に選ばれている。10 月 17 日(予備日 18 日)で計画しましたが、台風 19 号の影響で、中央線が一部折り返し運転等となった為、会則に基づき第 5 木曜の 31 日に変更、結果 28 日に通常運転に戻り、また天候にも恵まれ無事実施出来ました。

今回は雨が続いた後で、水量が増え水の流れやしづきは豪快で、遊歩道は鎖を握りながら水際をしっかりと歩きました。七ツ釜五段の滝、三重の滝の豪快さとエメラルドグリーンと紅葉のコラボは素晴らしいものでした。

実 施 日：2019 年 10 月 31 日(木) 天候：晴れ

歩行距離など：歩行時間 約 4 時間 歩行距離 約 10km 参 加 者：13 名(男性 11 名 女性 2 名)

コース所在地：山梨県山梨市

交 通：往路：金沢文庫 5:26 発 ⇒ 5:42 横浜 5:45 発 ⇒ 5:48 東神奈川 5:55 発 ⇒ 6:50 八王子 6:54 発 ⇒ 7:01 高尾 7:07 発 ⇒ 塩山 8:12 着

〈山梨交通バス乗車〉塩山駅 8:35 発 ⇒ 西沢溪谷入口バス停 9:30 着

復路：西沢溪谷入口〈山梨交通バス〉14:40 ⇒ 塩山駅 15:40 着

塩山駅 15:53 発 ⇒ 17:14 高尾 17:19 発 ⇒ 17:26 八王子 17:43 発 ⇒ 横浜 18:46 着

コースと時間：西沢溪谷入口 9:35 発 ⇒ 西沢山荘 10:15 発 ⇒ 三重の滝 10:40 発 ⇒ 人面洞 10:53 発 ⇒ 竜神の滝 10:50 発 ⇒ 恋糸の滝 11:09 発 ⇒ 貞泉の滝 11:00 発 ⇒ 母胎淵 11:18 発 ⇒ 七ツ釜五段の滝 11:42 発 ⇒ 不動滝 11:49 発 ⇒ 不動滝展望台 (12:00 着・昼食・12:33 発) ⇒ 大久保沢 12:59 発 ⇒ ネットリ大橋 13:35 着(オレンジタイム) ⇒ 西沢溪谷入口 14:10 着

ご存じでしょうか！ 西沢溪谷の水の色はなぜエメラルドグリーンか？

澄んだ溪流の水に光があたり、波長の短い青い光が散乱すると同時に、水中を通り抜けた光が水底の白い岩石(花こう閃緑岩)に反射して回り、その間、赤い光は水に全て吸収され、残った青や緑の光は水中で散乱するためエメラルドグリーンに見えるそうです。

この溪谷の水は、上流域の 2 千ヘクタールに及び森林地帯に降った雨水が、豊かな森の土壌と花崗岩の砂礫できれいに濾過されたもので、ここにはイワナ、ハコネサンショウウオなどの水生生物が生息しているそうです。

晴天下滝に寄り添う溪紅葉 一瞥



西沢溪谷入口



七ツ釜五段の滝

独自コース 75 番 「乙女峠から丸岳～湖尻峠～桃源台」(通算 156 回)

2 年前の 11 月、明星ヶ岳から明神ヶ岳へと箱根外輪山の東側を歩きましたが、今回はその外輪山の西側の一部を歩きます。天気さえよければ、左の眼下に芦ノ湖、右に大きな富士山の絶景を展望しながら稜線を歩く、絶好のハイキングコースです。

11 月も、台風 19 号の影響で帰路予定していました桃源台から小田原行の路線が不通となっている為急遽桃源台から海賊船で元箱根港に行き、箱根新道経由小田原へのバスに変更しました。(元箱根港～小田原のバスは通常は芦之湯・宮ノ下経由ですがこの路線は台風の被害で不通となっていました)

乙女峠～丸岳～長尾峠～湖尻までのコースは台風による目立った被害は見当たらず問題なく歩くことが出来、快晴に恵まれ、素晴らしい富士山と芦ノ湖の風景が堪能出来ました。また深良水門まで足を延ばしたことで、掘削当時の苦労を知ることができました。

実 施 日：2019 年 11 月 21 日(木) **天候**：晴れ

歩行距離など：歩行時間 約 4.5 時間 歩行距離 約 10km 参 加 者：20 名(男性 17 名 女性 3 名)

コース所在地：山梨県北杜市

交 通：〈往路〉横浜 6:13 発 ⇒ 7:04 国府津 7:07 発 ⇒ 7:57 御殿場着

〈箱根登山バス乗車〉御殿場駅 8:20 発 ⇒ 8:37 乙女峠バス停着

〈復路〉〈箱根観光船〉桃源台港 15:00 発 ⇒ 15:45 元箱根港・同バス停 16:00 発 ⇒ 小田原駅東口バス停着 16:40 (小田原駅にて解散)

コースと時間：乙女峠バス停 8:50 発 ⇒ 乙女峠 9:40 発 ⇒ 丸岳 10:30 発 ⇒ 富士見台 10:50 発 ⇒ 長尾峠 11:15 発 ⇒ 富士見公園 12:00 着(昼食)12:30 発 ⇒ 芦ノ湖展望公園 12:40 発 ⇒ 湖尻峠 13:25 発 ⇒ 深良水門 13:45 着(オレンジタイム)14:00 発 ⇒ 湖尻水門 14:25 発 ⇒ 桃源台港 14:35 着 (15:00 発の海賊船に乗船)

ご存じでしょうか！ 湖尻水門と深良水門

火砕流がなだれ落ち、いわば天然のアースダムが形成された芦ノ湖の湖尻で、この天然堰体部分に湖尻水門が設けられ早川へと通じています。しかし話によるとこの水門を水が流れることはなく、早川の水源にはなっていないというようです。現地では確かに水門は閉じられており、早川への流量調節のようなこともやっていないそうです。

一方、湖尻水門から湖岸遊歩道で 1.5km ほど進んだところにある深良水門の方は、芦ノ湖の水が音をたてて流れ出ています。この水門は芦ノ湖の水を静岡側へと導く深良用水の取水口です。

築造は江戸時代で、まさに手とノミだけで掘り抜かれた全長 1280m の水道トンネルを含む用水です。もともと静岡側は降った雨水がすぐにしみこんでなくなってしまう溶岩台地の土壌で、水不足に悩まされていました。はるばる芦ノ湖から導水する計画を思いついたのは地元深良村の名主・大庭源之丞で、農民を早魃から守るため、江戸幕府に用水の計画を提出したそうです。静岡側とはいえ当時は神奈川側の小田原藩に属していたこともあって、藩の許可と江戸商人の資金的、技術的協力を得て 4 年の歳月をかけて完成しました。

冬日和海賊船で湖(うみ)満喫す 一税



富士見公園



富士見台の富士山

独自コース 76 番 「奥武蔵 大霧山」(通算 157 回)

12 月も、台風 19 号の被害が長引いていて、当初計画の帰路のバスが運行中止になった為、橋場バス停～粥仁田峠～大霧山～旧定峰峠～定峰峠～白石車庫バス停までのコースを橋場バス停～粥仁田峠～大霧山の往復コースに変更し実施しました。

大霧山 (766.7m) は比企三山 (笠山、堂平山、大霧山) の 1 つで槻川を挟んで笠山と対峙しています。山頂からは、奥秩父の山々、ハヶ岳、浅間山、日光連山などが展望出来る山です。

快晴の中、山頂からは武甲山、両神山、浅間山などを眺めることが出来ました。また、途中にあったもみじ販売所 (実際はミカンの販売) 付近の休憩場所でミカンを買うことが出来ました。

実施日：2019 年 12 月 4 日(水) 天候：晴れ

歩行距離など：歩行時間 約 4.5 時間 歩行距離 約 10km 参加者：14 名(男性 11 名 女性 3 名)

コース所在地：埼玉県東秩父村

交 通：〈往路〉横浜駅 5:53 発⇒6:10 着 品川駅 6:20 発⇒6:48 着 池袋駅 7:00 発⇒8:10 着
小川町駅

イーグルバス 小川町駅 8:20 発⇒8:45 着 橋場バス停

〈復路〉イーグルバス 橋場バス停 14:46 発⇒15:15 着 小川町駅

小川町駅 15:22 発⇒15:34 着 森林公園 15:41 発⇒17:30 着 横浜駅

コースと時間：橋場バス停 9:00 発⇒粥仁田峠分岐 10:15 着 (フルーツタイム) 10:30 発⇒
大霧山 11:05 着 (昼食) 11:45 発⇒粥仁田峠分岐 12:15⇒県道 361 号線登山道入口 12:50
着 (コーヒータイム) 13:15 発⇒橋場バス停 14:02 着

ご存じでしょうか！ 東秩父村ってどんな村

東秩父村は埼玉県西部に位置する村で、秩父盆地から山を隔てた東側にあることから名づけられました。総面積は 37.06 km (東西 7.7 km、南北 10.5 km)、8 割が山林で正三角形の地形をしており、季節ごとに様々な花々が咲き誇る自然豊かな花の郷で、1 年を通じて、ハイキングなど多くの人々が訪れます。

秩父郡に属しているものの秩父盆地から山を隔てた東側にあることから、広域行政においては秩父地方ではなく隣接する比企郡の自治体とともに比企広域市町村圏組合を構成し、比企圏域に属する。警察署は小川警察署 (小川町)、保健所は東松山保健所 (東松山市) の管轄である。2006 年 (平成 18 年) 2 月 1 日に、都幾川村と玉川村が合併し、ときがわ町となって以降、埼玉県内で唯一の村である。

古くから「和紙の里」として知られ、隣接する小川町と共に「細川紙」の産地である。紙すきは 1300 年前より開始されたと伝えられている。

今日も良し嶺の展望冬麗 一杣



大霧山山頂にて



大霧山に向かって

独自コース 77 番 「城ヶ崎シーサイドコース」(通算 158 回)

城ヶ崎海岸の歩行コースは、八幡野港から蓮着寺までの城ヶ崎自然研究路 6km、3 時間のコースと海洋公園から富戸港までの城ヶ崎ピクニカルコース 3km、1.5 時間のコースがある。今回はこの 2 コースを連続して歩いた。まず伊豆急行線の伊豆高原駅から街中を歩き、八幡野港に、そこには多くのダイバーがいた。そこからは自然研究路に入り絶壁の海岸縁を進み、橋立の吊橋(長さ 60m、高さ 18m)、この吊橋下ではクラミングをする人が、そして海に流れ落ちる幻の滝対馬の滝、田中磯、いがいが根と。このいがいが根では伊豆大島、他の島々を眺めながらの昼食。昼食後は少し海から離れる路もあったが、ほぼ海岸線を歩行、大正年間に造られた燈明台跡、蓮着寺奥院、そのそばには俎岩(まないたいわ)。日蓮上人の「立正安国論」建白に怒った幕府が日蓮崎の沖に日蓮を配流したと伝えられている。そこを過ぎると日蓮の弟子日霊上人が開山した蓮着寺に着いた。そこには「ぼけ除けおさすり妙法地蔵尊」があり、皆が頭をさすっていた。蓮着寺を出るとピクニカルコースの入口である海洋公園、門脇崎灯台、パンフレット等でよく見る門脇吊橋(長さ 48m、高さ 23m)、吊橋傍の東屋でコーヒータイトム休憩。そこからは、絶壁に腰を下して釣をする釣人、砲台跡、ぼら納屋(食堂)、イルカ漁で有名な富戸港を見ながら舗装道路を進み、長い上り坂を登りきったところの伊豆急富戸駅で完歩。城ヶ崎海岸は、ダイバー、クライマー、ハイカーで一杯だった。

実 施 日：2020 年 1 月 16 日(木) **天候**：晴れから曇り

歩行距離など：歩行時間 約 6.0 時間 歩行距離 約 13 km 参 加 者：21 名(男性 15 名 女性 6 名)

コース所在地：静岡県伊東市

交 通：〈往路〉金沢文庫(京急) 6:38 発→6:45 着 上大岡(乗換) 6:54 発(横浜市営地下鉄 ブルーライン)→7:05 着 戸塚(乗換) 7:10 発 (JR 東海道本線・伊東線)→8:20 着 伊東(乗換) 8:26 発(伊豆急線)→9:12 着 伊豆高原

〈復路〉富戸 15:52 発(伊豆急線)→16:42 着 熱海(乗換) 18:40 発 (JR 伊東線・東海道本線)→19:50 着 戸塚(乗換) 19:58 発(横浜市営地下鉄 ブルーライン)→ 20:09 着 上大岡(乗換) 20:17 発(京急)→ 20:25 着 金沢文庫

コースと時間：伊豆高原駅 9:30 歩 Start→9:55 八幡野漁港→10:20 橋立吊橋→12:00 いがいが根[昼食]12:30→13:20 蓮着寺 13:30→13:40 伊豆海洋公園→13:55 門脇灯台・門脇吊橋 [コーヒータイトム休憩]14:30→14:50 ぼら納屋 →15:05 富戸港→15:35 歩 Goal 富戸駅 [解散]

ご存じでしょうか！ 「いがいが根」の名の由来

今回の「城ヶ崎シーサイドコース」で昼食をとった「いがいが根」は、地名のとおりイガイガしたトゲのような岩がたくさんあります。これは、溶岩の表面が冷え固まってできた殻が、流れてくる溶岩におされてばらに砕かれたため、トゲのような岩がたくさんできたのです。波に洗われてむき出しになっている溶岩の断面を見ると、溶岩の表面だけイガイガしていることが分かります。似たような名ですが、金沢区並木 3 丁目の「イガイ根公園」の「イガイ根」は漁師言葉で、イガイはカラスガイやセトガイの別名で、「根」は浅瀬の岩礁の意味だそうです。

愛日に仲間と海辺伊豆ハイク 一税



橋立吊橋



イガイガ根

2019 年度第 14 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 10. 28〉

ハドソン川の奇跡

制 作：2016 年 米 上映時間：96 分

監 督：クリント・イーストウッド

撮 影：トム・スターン

出演者：トム・ハンクス（サリー） アーロン・エッカート（ジェフ・スカイルズ）

ローラ・リニー（ローリー・ザレンバーガー）



【あらすじ】

2009 年 1 月に起きた US エアウェイズ 1549 便のハドソン川不時着水事故。乗客乗員全員が無事救出されたことから機長のサレンバーガー（サリー）は国民から熱狂的な称賛を浴びた。しかし、事故後に開かれた国家運輸安全委員会（NTSB）。世間の評価とは異なり事故をデータから解明する NTSB。機長と副機長（ジェフ）の健康状態、事故の原因調査、空港に戻らずハドソン川に不時着水した行為の正当性が問われる。左エンジンは作動可能であったという事故データ

を得た NTSB は空港に引きかえすことが正当な行動であり、ハドソン川着水はリスクな賭けであったと主張する。そして、もしも NTSB の主張が認められればサリー達は職を失う羽目になる。追い詰められたサリー達が公聴会でシミュレーション結果に反論したことは？NTSB 職員が計算外れを認めたファクターは？
実話をもとに、巨匠クリント・イーストウッド監督と名優トム・ハンクスが初めてタッグを組んだ話題作。

【解 説】

■ポイント

●実話

2009 年 1 月 15 日、ニューヨーク発シアトル行きの航空機がニューヨーク市付近の、ハドソン川に不時着水した事故。離陸から着水までわずか 5 分間の出来事で乗客乗員全員が無事生還した。

●監督クリント・イーストウッドと主演トム・ハンクス

◎監督クリント・イーストウッド
・「恐怖のメロディ」（1971 年）で監督デビュー



・「許されざる者」（1992 年）、「ミリオンダラー・ベイビー」（2004 年）でアカデミー監督賞を受賞

◎トム・ハンクス（1956 年～）

・カリフォルニア州生まれの映画俳優
・「フィラデルフィア」（1993 年）、「フォレスト・ガンプ/一期一会」（1994 年）で 2 年連続アカデミー主演男優賞を受賞

現在のハリウッドを代表する映画俳優



■見どころ

NY の良心と呼ばれた救出劇

人種の垣根といわれる NY で事故に遭った乗客と救援隊が一致協力して救出活動にあたる姿。

最後まで乗客を救出する機長サリー。これは全員の勝利だと語るサリー。

2019 年度第 15 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 11. 11〉

二十四の瞳

制 作：1954 年 松竹

上映時間：156 分

原 作：壺井栄

監 督：木下恵介

音 楽：木下忠司 撮 影：楠田浩之

出演者：高峰秀子（大石先生）、笠智衆（男先生）、月丘夢路（マスノ）、田村高廣（磯吉）
明石潮（校長先生）



【あらすじ】

昭和 3 年 4 月、小豆島。島の小学生は 4 年生までは岬の分教場に、5 年生になると本校の小学校に通う。分教場の新任教師は女学校を出たの大石先生。先生は洋服を着て自転車で四里の道のりを通うモダンガール。先生が受け持つ生徒は 1 年生で総勢 12 人。ある日、先生は子供たちと遊んでいるときに足を負傷してしまう。心配した生徒たちは先生の自宅まで見舞いに行く。やがて、先生は本校に転勤となり 12 人の生徒とお別れになる。5 年後、世の中は不況になり日本は戦争体制に。生徒たちは 6 年生で本校に通うようになり、先生も結婚をする。卒業間近で各自、進路を考える時期に

なる。働く者、進学する者……。学校内の窮屈な雰囲気嫌気がさした大石先生は学校を辞めてしまう。戦争への道をひた走る日本。戦地に赴く教え子たち。夫も戦争で亡くす大石先生。

昭和 21 年。長かった戦争も終わり先生は岬の分教場に復職する。先生の歓迎会。久々に集まった教え子たち。見えぬ目で、昔撮った集合写真の説明をする磯吉。二十四の瞳が先生に贈ったプレゼントは……。

昭和 3 年から 21 年までの 18 年間で僻地の小学校を通じて地方の貧困と戦争の悲惨さを描いた大河小説の映画化。

【解 説】

■ポイント

●木下恵介（1912 年～1998 年）

- ・静岡県浜松市生まれ、松竹蒲田撮影所に入社
- ・1943 年「花咲く港」で監督デビュー。
- ・黒澤明とは終生のライバルと目されたが、1969 年に、木下、黒澤、市川崑、小林正樹の 4 人で「四騎の会」を結成
- ・代表作 「カルメン故郷に帰る」（1951 年）、「日本の悲劇」（1953 年）、「喜びも悲しみも

幾年月」（1957 年）、「樗山節考」（1958 年）、「衝動殺人息子よ」（1979 年）

- ・木下組のスタッフ 音楽：木下忠治（実弟）、撮影：楠田浩之（妹の夫）、照明：豊島良三 録音：大野久男、編集：杉原よ志

●受 賞

第 28 回キネマ旬報ベスト・テン：第 1 位（同第 3 位に「七人の侍」）



■見どころ

- 全編を通じて流れる音楽がそれぞれの時代を反映する鏡となる
- 変わらぬ自然。変わりゆく時代と人々の生活

2019 年度第 16 回 鑑賞会
〈鑑賞日：2019. 11. 25〉

ドリーム



制作：2016 年 米 上映時間：127 分

監督：セオドア・メルフィ

撮影：マンディ・ウォーカー

出演者：タラジ・P・ヘンソン（キャサリン・ゴープル・ジョンソン）、オクタヴィア・スペンサー（ドロシー・ヴォーン）、ジャネール・モネイ（メアリー・ジャクソン）、ケヴィン・コスナー（アル・ハリソン）、クリスティン・ダンス（ヴィヴィアン・ミッチェル）、マハーシャラ・アリ（ジム・ジョンソン）

【あらすじ】

米ソ冷戦下の 1961 年。ヴァージニア州ハンプトンにある NASA ラングレー研究センター。技術者であれば誰もが憧れる職場、NASA で働く三人の黒人女性。黒人初の管理職を目指すドロシー、初の女性航空技術者を目指すメアリー、そして数学の天才で検算の権威を目指すキャサリン。黒人で女性という二重のハンデを背負いながら、エリート集団の NASA で自らの目指す道を邁進する三人。キャサリンは合理主義者アルの信任を得ながら重要な仕事を任されていく。ガガーリン

の有人宇宙飛行成功でショックを受ける NASA。宇宙開発でソ連に後れを取ったアメリカは将来の月面着陸を目指し有人の地球周回軌道の飛行を計画する。その最終チェックはキャサリンの検算の手に委ねられて……。公民権法成立前のヴァージニア州で差別と闘いながら、国家的事業の推進に貢献した黒人女性三人。三人の奮闘努力を爽快地に描いたサクセスストーリー。

【解説】

■ポイント

- 米ソ宇宙開発競争（1957 年～1968 年）
米ソの宇宙開発競争は冷戦下の米ソの科学技術競争の象徴となったもので両国の威信をかけた争いとなった。
1957 年 10 月 初の人工衛星打ち上げ（ソ）スプートニク 1 号
1958 年 7 月 NASA 設立（米）10 月マーキュリー計画承認

- 1961 年 4 月 有人宇宙飛行（ソ）ボストーク 1 号・ガガーリン
1962 年 2 月 アメリカ初の地球周回飛行に成功（米）フレンドシップ 7 号・グレン
1963 年 6 月 女性宇宙飛行（ソ）ボストーク 2 号・テレシコワ
1968 年 8 月 人類初の月面着陸（米）アポロ 11 号

■見どころ

- 二重の差別と闘う三人
 - ・NASA という華の職場で白人エリート男性を相手に人種と性別という二重差別をものともせず立ち向かう三人の逞しい姿にエール
 - ・任務の遂行を最優先し偏見にとらわれず合理的な対応をするアル・ハリソン

2019 年度第 17 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 12. 9〉

追 憶

制 作：2017 年 日

上映時間：99 分

監 督：降旗康男

撮 影：木村大作 音 楽：千住明

出演者：岡田准一（四方篤）、小栗旬（田所啓太）、柄本佑（川端悟）、長澤まさみ（四方美那子）、木村文乃（田所真理）、安藤サクラ（仁科涼子）



【あらすじ】

25 年前の 12 月 24 日の北陸。各々事情があつて親元を離れた、篤、啓太、悟の 3 人の少年。3 人は親代わりで喫茶店を営んでいた涼子が元夫の貴船の突然の出現により困惑している姿を見て、貴船を殺してしまう。それに気づいた涼子は 3 人に「今起きたことは忘れなさい。全て私に任せなさい。今後は二度と会わないように」と約束させ自ら罪をかぶる。

富山県警刑事の四方篤は自分を捨てた母親から度々カネをせびられている。篤は美那子と結婚しているが美那子の流産を機に別居。東京でガラス店を営む悟は仕事がうまくいかず金策のため度々富山に行く。輪島で土建業を営む田所啓

太は仕事も順調で妻の真理は妊娠している。ある晩、篤は悟と偶然出会い、痛飲する。翌日、殺人事件が発生し篤は現場に急行するが、被害者が昨晩会った悟であることに驚く。悟から啓太のことを聞いていた篤は啓太のもとを訪れる。25 年前に別れた 3 人が図らずも、刑事、被害者、容疑者という関係で再会することになる。

啓太は本当に悟を殺したのか？3 人の恩人である涼子のその後は？妊娠中の真理は無事子供を出産できるのか？真理の出生の秘密とは？

降旗・木村のレジェンドスタッフが、今が旬の若手キャストを結集して制作したミステリー映画。

【解 説】

■ポイント

●監督：降旗康男、撮影：木村大作コンビ、降旗の代表作のほとんどは木村が撮影（本作で 16 本目）特に監督：降旗、撮影：木村、主演：高倉健のトリオは名作が多い 駅 STATION（1981 年）、居酒屋兆治（1983 年）、あ・うん（1989 年）鉄道員（1999 年）、あなたへ（2012 年）

本作では高倉のピースに岡田准一がはまる。

●幼馴染みが刑事と容疑者に分かれて再会（他の映画でも時々見られる）

- ・ミスティックリバー（2003 年）
- ・永遠の仔（2000 年・TV）



■見どころ

●旬の役者が大集合 演技派とみられる若手俳優が集結

3 人の少年：岡田准一、小栗旬、柄本佑、女優：長澤まさみ、木村文乃、安藤サクラ（柄本と安藤は夫婦）

2019 年度第 18 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 12. 23〉

王 様 と 私



制 作：1956 年 米 上映時間：145 分
脚 本：アーネスト・レーマン
監 督：ウォルター・ラング
音 楽：リチャード・ロジャース 撮 影：レオン・シャムロイ
出演者：ユル・プリンナー（王）、デボラ・カー（アンナ・レオノーウェルズ）
リタ・モレノ（タブティム）

【あらすじ】

1862 年シャム王国の都バンコク。未亡人アンナが一人息子のルイを伴ってイギリスからやって来る。アンナはシャム王から子供たちの家庭教師として招かれ、到着するなり王様に謁見する。アンナはそこでビルマからの貢ぎ物タブティムという娘を知り、王様から妃たちや子供たちの紹介を受け

その数の多さに驚く。

アンナから授業を受ける子供たちと妃たち。王様もその様子を見る。ある晩、アンナはチャン王妃から悩む王様を助けてほしいという相談を受ける。アンナはイギリス大使に西洋風のもてなしをすることを提案する。晩餐会当日、催しは成功し、

その後アンナは王様とダンスをする。その時、恋人と駆け落ちしたタブティムが見つかり、怒った王はタブティムにむち打ちの刑を命じる。

アンナは野蛮な王様の態度に失望し帰国を決意する。帰国当日アンナの元にチャン王妃が現われて語ったことは？そしてアンナをシャムに留ませたものは？

欧米列強の圧力に悩む国王と家庭教師として招かれたイギリスの未亡人。ブロードウェイのヒットミュージカルの映画化。ブロードウェイミュージカルでもシャム国王役を務めたユル・プリンナーのはまり役。

【解 説】

■ポイント

- 制作経緯 マーガレット・ランドンの小説「アンナとシャム王」発表（1944 年）ブロードウェイのミュージカル「王様と私」初演（1951 年）本件映画化（1956 年）
- ラーマ 4 世
 - ・1804 年～1868 年（在位 1851 年～1868 年）
 - ・「王様と私」のモデルとされている 欧米列強の東洋進出の頃のシャム王 英国人女性を家庭教

- 師に招き、西洋との関係を強化、清への朝貢をやめ冊封体制を廃止した
- ・アジア諸国で欧米列強の植民地にならなかったのは日本とタイの 2 国のみ

- 受 賞（第 29 回アカデミー賞授賞・5 部門）
主演男優賞、美術賞、衣装デザイン賞、作曲賞、録音賞



■見どころ

- 当時の西洋文化と東洋文化の違い
- シャル・ウィ・ダンス 東洋風衣装の王様と西洋式ドレスを身に着けたアンナが踊る

「浮雲俳句会」

抄録 No.48

代表 北野 清市

第 20 回金沢区民俳句大会 吟行会への参加 令和元年 10 月 27 日（ののはな館）

第 20 回金沢区民俳句大会吟行会は、秋闌けなわの絶好の天候のもと金沢自然公園界隈で行った。昨年の本大会では、ご当地俳句の出句数が過去最高を記録し、それだけに今年状況を一番心配したが、出句総数 46 句中 33 句（72%）がご当地俳句。残り 13 句（28%）が当季雑詠と昨年に匹敵する状況に安堵した。ただ、わがメンバーの成績は、会長賞の天・地・人賞には該当せず会員選の第 1 位に、2 句で 11 点を獲得している。

倒木の年輪なぞる鶴かな 国 眼

オカピ寄る鼻の先には金木犀 国 眼

134 回例会 令和元年 11 月 24 日

〔 秀作 〕

天賞

光陰の矢にたじろがぬ寒苦鳥 十 九

寒苦鳥を巧みに捉えた秀句。寒苦鳥は印度の雪山に棲むといわれている想像上の鳥。この寒苦鳥。「光陰矢の如し」の矢にたじろがぬ剛の鳥で、そのためか歳月のたつのが極めて早いのである。因みに、仏教上この鳥を人間がなまけて悟りの道を求めないのに例える。

地賞

大鮪捌く鉢巻き喰れ声 一 馬

ねじり鉢巻をして悪戦苦闘している料理人の様子をよく現わしている佳吟。今年の津軽海峡では、函館の鰯烏賦が不漁で例年の三分の一。その代り鰯が豊漁で例年の 9 倍もとれているという。この点、大間でも鮪は少ないが、先般一本釣りで 300K、3 億円の大物を両者の 30 分近くの格闘の末水揚げしている。

人賞

石路の花ひかりの束を天に投ぐ 和 女

発想の柔軟な時宜を得た秀作。花の段々少なくなった季節。石路はキク科の多年草であるだけに、その黄色の花の集合した生命力は素晴らしい一語につきる。しかも、逆方向から観察したユニークな発想に感服した。

特選

鮫鯨に止めの一太刀刺しにけり 三 洋

冬到来、鍋の季節である。鍋の東の横綱は鮫鯨鍋が定番である。関東では福島や茨城など底引網が活躍する港からアンコウが入荷し、それが神田で今に残る『伊勢源』などの「名物鮫鯨鍋」となり今日に至っている。鮫鯨の身は全身ヌルヌル、ブヨブヨでその顔貌は世界の暗闇を一身に背負っている様で恐ろしくもあり、反面愛嬌もある。「真っ先に肝を抜かれて吊り鮫鯨 福田貴志」可哀想に、罪も無い鮫鯨は俎板の上で捌かれるのではなく頭を上にして吊し切りにされるのだ。皮が剥がされ、肉、内臓の順に切り刻まれる。料理人は最後の一太刀を刺して全ての作業を終る。吊りした鍵ロープに面妖な歯のみが残る。

むささびの滑空を待つ闇の中 あきえ

日本百名山の一つ、両神山に山の好きな女性 4 人で登った時の句です。山小屋での夕食時、宿の主人が“近くの大木にムササビが住んでおり飛ぶ姿を見ることができますよ”と。同宿の人と一緒に八人程で、暗闇の中、息を殺して今か今かと待ちました。闇とはいえ目が慣れるとそれらしき木の姿も見えてきました。“あ！飛んだ！” 思いがけずムササビの滑空にも出会え、充実した山行でした。

初しぐれポットに湯ありカップ麺 勇 平

冬を間近にしたある夜の日。裸電球の灯りには冷たい雨を映している。銭湯帰りのある一夜のこと。フォークソング「神田川」の世界と言いたいが、寂しいかなこの句は連れのいないたった一人の情景である。四畳半一間のねぐらに戻りポットの湯でカップ麺を食す。数十年前の貧乏学生時代を思い出して作句したが、当時にはポットもカップ麺も無かったことに気付いた。

自慢気に白き肩出し畑大根 とも女

三浦は、昔から、三浦大根が有名で、全国に知られている。以前は、三浦大根と言えば、中ほどが膨れて、天地が細く大きかったが、現在は、より細めの青首大根が主流となっている。年の暮に、三浦の市場に行くと大きな三浦大根も並んでいる。三浦台地を訪れた時は、ちょうど収穫時期だった。大根畑の広がっている風景は、美しく見事である。黒土に螺旋を描く緑の葉を広げ、葉の下に、大根が、真っ白な肩を土から出している夫々の大根が、白い肌を競い合っているように思われる。三浦台地の冬の風物詩である。

山茶花に「和楽」の石に迎へられ

国 眼

今年の11月7日の「寺社を巡る会」は小机城址とその周辺の寺社を訪ねました。曹洞宗の金剛寺に辿り着くと山茶花のお出迎えです。本堂前の庭の石には「和楽」の文言が刻まれていました。元号の「令和」の時代の生き方の一つを暗示しているようで、心に残りました。皆で本堂に上がり、法話も拝聴しました。

135 回例会 令和元年 12 月 22 日

〔 秀作 〕

天賞

侘助の一輪白く描く筆

和 女

茶人好みの侘助を見事に筆で描いた秀逸。葉が小さく、花も釣鐘形で白い侘助を一輪だけ筆で書いたのである。千利休で完成したという茶の湯において、白い一輪の侘助のもと侘茶を頂くことは茶人最高の喜びでもあろう。

地賞

ポインセチア玻璃に溢るる港の灯

とも女

ポインセチアは、メキシコ原産の高さ2m程、葉は大型の円形で濃い赤色。観賞用に栽培されているのである。その鉢！七宝焼が横浜の港の灯りに溢れているというのである。見事！見事！

人賞

冬眠も眼覚む第九の大合唱

勇 平

第九即ち第九番「合唱付」の略称。声楽が交響曲に使われた最初で、雄大さと荘厳さにおけるベートーベンの最高芸術である。同時に古今の交響曲の傑作ともいえる。この第九の大合唱に冬眠中の動物も目覚めたという雄大さに感服させられる。

特選

楚々と咲く庭の潤ひ冬至梅

一 梶

近所のご主人は趣味である盆栽を永年続けられており、大切に育てている鉢の数は30鉢ほどである。そのうちの2鉢は白い花びらと薄紅色の二種類の冬至梅。花の少ないこの時期、通りから見える冬至梅は楚々としていていながらもその存在感をアピールしている健気な様子と、かつ、冬の庭を潤している様子がうかがえる。他人からみて羨ましい限りである。

ポインセチア皇后さまの笑顔^は愛し 一 馬

祝賀御列のお車から手をお振りになった皇后雅子さまの少し控え目な頬笑み。丁度この頃に花序をつけ始めるポインセチアのように、優美で慎ましやかな皇后さまの笑顔、そしてそれが国民に安堵と敬愛の念を呼び覚ましたのではないのでしょうか。

父に似し羅漢の貌や冬至空 二 祥

栃木・宇都宮の「大谷観音」を訪れた帰り「祥雲寺」に寄った。ここの 五百羅漢も中々のもの。よく見ていると口を大きく開けた羅漢様が・・・亡父の顔、表情が似ていた。何の巡り合わせか。いい供養になった。空は雲居から日がのぞいているが暮は早い。そうだ明日は一陽来復、冬至だ。坂東三十三漢音巡礼の良いお土産を買った。

冬ざるる尋ねし者は風の音 春 駒

昭和 40 年代子供の頃住んでいた家は、満州から着の身着のまま引き揚げてきた父が借金をしてようやく手にした隙間風吹く古屋でした。一家 7 人の 3 世代。経済的にはかなり苦しかったはずですが、末っ子で生まれた私はそんな我が家が恥ずかしいと泣いて両親を困らせたことを覚えています。木枯らし吹く冬のある夜、風が雨戸をたたく音に、夢なのか現実なのか分からないまま深く布団にもぐっていました。そんな幼い頃の心境を詠んだ句です。

風呂吹と酒にふっとぶ憂ひかな 重 九

冬野菜の代表格である大根ほど多彩なレシピのある野菜はそう見当たりません。おでん、煮物、豚バラ大根、ゆず大根、大根サラダ、大根おろし、風呂吹き大根、味噌焼き大根、大根ステーキ、漬物など。中でも大根を輪切りにして茹で、熱いうちに練り味噌をつけて食べる風呂吹き大根をふうふう息を吹きかけながら食べるのは最高です。酒も進みます。今日一日のちょっと嫌なこと、気になって引っかかっていたことも吹っ飛んで終わりました。余談ですが、風呂吹きの大根の由来を調べてみるのも一興ですね。

〔追加の一句〕

兼題 「令和元年」

激動の「令和元年」暮早し 一 清

※（激動）

1 新天皇の御即位

5 月 1 日新天皇が即位され、雅子さまが皇后になられた。まさに平成と令和の区切だ。公的には、数々の「即位の礼」が挙行され、「皇位継承の儀」もあったが、そのなかでは諸外国の元首級 450 人程を招待。祝賀パレードと続いたのが格別印象的であった。民間団体もこれらに呼応して提灯行列をして祝賀した。一方、大嘗祭は皇室の私的行事で 11 月に、伊勢神宮や奈良の橿原神宮など方々で厳

粛に行われた。

2 国内

I Tの電子決裁やA I人工知能それに空飛ぶ自動車のアタックなど科学分野の飛躍的な躍進(5月以来)。G20 首脳会議(大阪6月)・11ヶ国とのT P P環太平洋経済連携協定の合意(7月)・参議員選挙(7月)・はやぶさが帰還の途(7月)・第4次安倍内閣の発足(9月)・日米貿易協定の署名(10月)・大納会における29年ぶりの株式の高値引け(12月)。

3 国外

北朝鮮や韓国問題(5月以来)・トランプ米大統領の初めての北朝鮮入り(6月)・米中の貿易摩擦問題(5月以来)・香港デモ(7月以来)・中東情勢特にイランの石油問題(8月以来)・宇宙軍の発足検討(9月以来)

・イギリスのEU離脱を議会多数決で承認(11月)。

以上「令和元年」は、僅か8ヶ月という短い期間であったが大いに変貌した。とりわけ科学分野におけるテンポの早い発展、広範囲にわたる格差と変容には目を見張るものがあった。

〔メンバーの追加の一句〕

兼題 「令和元年」

令和大賞

夢つなぐ「令和元年」注連飾る

十 九

令和準賞

「令和元年」和み続けよ実万両

国 眼

大嘗祭「令和元年」締め括る

一 馬



江戸時代の五街道を歩く(9)

古文書を読む会 代表 真田 雅行

日光街道紀行



東海道と中山道の次は日光街道（江戸～日光36里約140km）の旅である。

浅草→千住→草加→春日部→栗橋→古河→小山→宇都宮→今市→日光のルートで、元和3年（1617）徳川家康（死後東照大権現）が遺言により死後久能山から日光山へ改葬されて以来、将軍・大名参拝や観光で大いに賑わった。

今回の旅は宇都宮で一泊した以外はすべて日帰りにして、最終回は今市～日光間8kmの杉並木を歩いた正味5日の旅であった。

さて、従来通り日本橋北詰の道路元標からスタートし、室町本町3丁目交差点を右折して、先ず十思公園内にある「伝馬町の牢屋敷跡」と「時の鐘」を訪れた。

江戸時代多くの罪人を収容した「牢屋」は跡形もなく、ただ立札のみで往時を想像するだけであった。

江戸時代を通じ室町4丁目では時を告げ続けた「時の鐘」はここ公園に移されて現存している。

寄り道して元吉原遊郭跡や、江戸初期に関東8ヶ国を治めた関東郡代で特に治水灌漑に抜群の能力を発揮した「伊奈忠治の屋敷跡」を過ぎ、神田川にかかる浅草橋を越えて左折すると、江戸台所を支えた蔵前の御蔵跡があり、この辺から日光街道は隅田川に沿って浅草寺の雷門、言問橋から千住に向かっていた。

隅田川は第二次大戦後の経済復興期のためか荒れ放題となり、最近の環境整備で大分回復はしたが、それでも明治期の滝廉太郎の「花」に歌われた頃にはほど遠い。

春のうららの隅田川 登り下りの舟人が
櫂の雫も花と散る 眺めを何にたとふべき……

花川戸から南千住に至る街道筋を行くと、地下鉄日比谷線のガードをくぐった所に、今は目立たないので気をつけないと通り過ぎてしまうが、江戸時代の「小塚原刑場跡」があり、東海道沿いの鈴ヶ森刑場と並んで数多くの罪人が処刑された。JR線ガードを越えると「回向院」、処刑者を弔うために両国の回向院の別院として創られ、幕末の「安政の大獄」で刑死した吉田松陰、頼三樹三郎、橋本左内など藩士の墓がある。

千住大橋に近づくと交差点角の「素盞雄神社」^{すさのお}に至り、境内に千住天王子育ての大イチョウが大注連縄とたくさんの絵馬に飾られ、一角に芭蕉を慕う人々が建てた句碑をみていよいよ隅田川に架かる「千住大橋」を渡る。橋の北詰の大橋公園には芭蕉の「矢立初の碑」があって、元禄2年（1689）春、彼は門弟曾良を伴い江戸深川から舟で隅田川を上りここ大橋辺りで降りた。

千じゅと云所にて舟をあがれば、前途三千里のおもひ胸にふさがりて、
幻のちまたに別離の泪をそ、ぐ…………。

行春や鳥啼魚の目は泪

「奥の細道」より

芭蕉はここから奥州、北陸を廻り大垣まで何と600里（2,400km）150日の旅を続けた。

日光街道はやがて国道4号と分かれて右手に入り、「やっちゃば」といわれた青物市場から「千住宿」が始まる。ここで収穫された野菜類は「やっちゃば」で取引されて江戸へ運ばれたが、当時の青物問屋の家があちこちに残り、玄関や塀にいろいろの木札がかかげられ、“当時の情景はさもあらん”と想いながらしばらく行くと賑やかな交差点に出た。この辺が宿の中心地で高札場跡、一里塚跡、「問屋場」跡などの石柱があり、人馬の調達や公用書類の継立を行った。

近くの「勝専寺」は將軍家が日光参詣の途中立寄った寺で、將軍の全参詣19回の中家光10回、秀忠4回に及ぶ。

街道右手に入り、森鷗外が学生時代4年間住んだ「森鷗外旧居橋井堂」の住居跡を訪れて街道に戻り、江戸後期の商家「横山家」前を過ぎ、名物「かごや槍かけだんご」の絶品を賞味して進むと、荒川堤防にぶつかる手前に明和年間（1764～72）開業の接骨院「名倉医院」がある。当初から“接骨は名倉”と有名だったようで、一日の患者は300～500人を数えたといわれ、現在も武家屋敷に似た長屋門の奥に大きな医院があり、広い駐車場もあって繁昌しているようだ。

千住宿はここで終り荒川堤防に出、少し歩いて千住新橋を渡れば5kmで「草加宿」である。この辺りは沼沢地が多く江戸初期は松戸へ迂回していたため、慶長11年（1606）「大川図書」があたらしい宿駅を開設したのが草加宿である。彼の墓が「東福寺」にある。

立ち並ぶ草加せんべいの店、「草加せんべい発祥の地」記念碑まで来て、直ぐ隣にある川湊（ここから江戸へ米を積み出した）だった「札場河岸」を越えると綾瀬川沿いの「札場河岸公園」入口に着く。

入口に立つ高い望楼、芭蕉の銅像からは有名な「草加の松原」が1.5kmも続き、途中に芭蕉に因んだ木造り太鼓型の「矢立橋」と「百代橋」があって、松並木の全景が見通せて何とも素晴らしい。

松原が尽きて蒲生大橋の右岸に出ると県内で唯一残る「蒲生愛宕神社の一里塚」だが、ほとんど崩れて注意しないと見過ごしてしまう。

次の「越谷宿」は江戸初期に開かれた宿場町、寄り道して3年に1度秋祭りがある「久伊豆神社」に立寄った後、宿はずれにある400年の伝統をもつ勇壮華麗な獅子舞で有名だという「香取神社」を左手に見ながら春日部宿へと急ぐ。

「春日部宿」は古墳時代から開けた所で、平安・鎌倉時代に武士団が成長し、現市名は新田義貞の鎌倉攻めに功があった御家人の春日部（粕壁）重行に因むという。江戸時代には宿場町として発展し、伝統工芸の桐タンスと桐小箱のほか浅草羽子板市で売られる押絵羽子板で有名だ。

芭蕉は奥の細道では草加に泊ったように書いているが、随行した曾良の日記では春日部に泊ったと記す。そこが大通りにある東陽寺だという。

しばらく行くと田村家旧家前に“東江戸、北日光、西南いはつき”と刻まれた石道標があり、この辺が宿の中心だった。右折して新田橋を渡り一里塚跡と日光道標を経て杉戸宿へ。

春日部で見逃せないのが「牛島のフジ」の老大樹だ。樹齢1,200年で国の天然記念物に指定され、花房は1～2mに及ぶといわれるが、シーズンの5月上旬前に通過したので残念ながらピーク時を外れた。

古利根川の渡船場「杉渡」が町名の起こりの「杉戸宿」を過ぎて6kmで「幸手宿」着、ここは日光御成街道の分岐点で、更に道端に「右つくば道 左日光道」の道標とあり、上部に地蔵を掘り込み、道しるべだけでなく旅の安全をも願った。10kmほど歩けばやがて埼玉県北東端の「栗橋宿」である。

幕府は江戸防衛のため利根川に橋を架けさせなかったのも、栗橋は利根川の渡船場を兼ねた宿場町として賑わったが、ここには「静御前の墓」があり駅前のイチョウの木の下にひっそりと立っていた。

彼女は文治5年（1189）義経のあとを追って平泉へ向かい、途中で義経の死を知り供養したといい、病気のためここで22歳の生涯を閉じたといわれる。

さて、栗橋を過ぎてすぐ利根川を渡ると茨城県の西端で、ここで国道4号を外れ「古河宿」に入った。

室町～戦国時代の15～16世紀に関東地方の支配を任された足利幕府の鎌倉公方の嫡流・足利成氏が本家の京都足利将軍家や家老の関東管領・上杉氏と対立、鎌倉を追われて1455年に発祥地足利に近いここ古河に移り古河公方と称したが、その館跡が「古河総合公園」内のはずれにある。

古河公方及び徳川時代の譜代藩主土井氏の居城「古河城」は明治時代に壊され、城跡も大正時代の渡良瀬遊水地工事で河川敷となり、わずかに市内の福法寺に移築された江戸初期の城門が残るだけという。

ひっそり静まり返った雑木林内の館跡で乱世の浮沈のことを想った。

古河ではこの外土井氏の菩提寺「正定寺」、静御前が義経の菩提を弔った「光了寺」、土井氏の家老鷹見泉石の旧宅（記念館）を巡り栃木県入りし、途中野木神社の拝殿にある絵馬「黒馬繫馬図」（江戸時代後期の文人画家・谷文晁の作）を拝観し、6km先の「小山宿」へ急いだ。日帰りのためである。

数日後新幹線で小山まで来て宇都宮までの21kmの旅が始まった。

小山は徳川家康が会津の上杉景勝征伐に来て西軍の石田三成の挙兵を知り、ここで有名な「小山会議」を開いたことで有名で、直ちに江戸→関が原へと引き返した。

その軍議跡を訪ねるべく「須賀神社」へ直行した。が、長い参道を抜け、境内でそれらしきものを探したが見つからない。わずかに家康が慶長5年（1600）にここで戦勝祈願したと説明板にあるだけだ。拍子抜けして已むなく4号線をしばらく歩き、「祇園城跡」の南側にある「小山御殿跡」に来了。江戸時代前期に将軍家が日光参拝の際の休憩・宿泊所としてここに御殿が設けられたと説明板にあった。

跡を歩きながら想像を巡らせた。將軍家がわざわざこの地に御殿をつくるとは何か訳があるのではないか。察するところここ一帯が徳川天下の大きな契機となった小山会議の記念すべき場所だったからではないか。現在小山市役所の前庭に「史跡小山評定所跡」の碑が建っている。

7.5kmほど歩くと「小金井の一里塚」（国史跡）に出くわした。江戸から22里目（88km）の一里塚で、明治17年（1884）に国道4号線が隣に開通したが、ここが運よく新道から外れたため残ったもので、両側に原形をとどめる一里塚は日光街道では珍しい。一里塚の間の発掘調査が行われて江戸時代の道路構造が判明したという。

「小金井宿」に入り「慈眼寺」に立寄り。ここは3代將軍家光以来、日光參詣の小休所で朱印地として保護を受けた。

雑木林と少なくなった桑畑が続く「石橋宿」、特産物かんぴょうの夕顔の花が一带に咲く「雀宮宿」を通過して、夕刻宇都宮中心部に到着、今日はここで一泊した。

「宇都宮宿」はもともとは「二荒山神社」の門前町というが、中世は宇都宮氏、江戸時代に入り譜代大名の本多正純、その後は奥平、阿部、松平、戸田の各大名が藩主として「宇都宮城」に君臨した城下町で、幕末の戊辰戦争で新撰組の土方歳三などの幕府軍の攻撃により焼失した。

初期徳川家康第一の忠臣とされる本多正純が、二代將軍秀忠を暗殺するためにこの城内に仕掛けたとされるいわゆる「釣天井事件」伝説の場だときいていたので、先ずはここと発祥地の二荒山神社を訪ねることにした。

城跡は2007年に宇都宮城址公園として整備され、富士見櫓、土塁、堀が復元されていたが、当然のことながら釣天井事件の片鱗さえ窺えなかった。ただ正純が改易されたのは事実だから何かがあったのは間違いない。この事件はどうやら宇都宮の前藩主で正純との配置替により当時古河城主となっていた奥平忠昌の祖母加納御前（家康の長女亀姫）の中傷（讒言）によるものらしいが確証はない。

忠昌は再び宇都宮城主に復帰している。が、ここがその伝説地だったのだと空想するだけでよいのではないか。

「二荒山神社」は栃木県庁の近くにある。延喜式式内明神大社として宇都宮氏の信仰を得、徳川氏の保護を受けたが、戊辰戦争でやはり焼失したのを再建したもので、境内に拝殿・本殿・神楽殿などが立ち並んでいた。

さて今日は国道119号線を「徳次郎宿」、「大沢宿」を経て今市まで25.5kmの一日としては長距離を歩かねばならない。途中にある大谷観音や大谷摩崖仏は他日を期すことにして、黙々と歩いて大沢宿に到着。大沢からは「日光杉並木街道」が始まるので単調さは和らいだが、今市までは車道にもなっているので逆に車にも気を付けねばならなかった。

日光杉並木は徳川初期三代に仕えた東照宮造営奉行で川越城主の松平（大河内）正綱親子が、紀州熊野から苗を取り寄せて植林し、20年余の年月をかけて完成し日光東照宮へ寄進した神木で、現在では国内では唯一国の特別史跡と特別天然記念物の二重

指定を受けた世界一長い並木である。大沢から日光に至る19.2km、植樹後三百数十年経った今でも1万5千本の天を突く緑の回廊となって続いている。

さて、日光街道のハイライト今市～日光間の8kmはほとんど舗装されていない歩道なので、旅の最終としてゆっくり鑑賞しつつ歩けることを期待しつつ、今回は今市で切り上げた。

平成19年（2007）7月28日、電車で今市まで来て、日光街道と日光例幣使街道の分岐点にある「追分地藏尊」からスタートした。ここからが「今市宿」、地藏尊は3mの丸彫り石坐像で、赤い帽子と前掛けがよく似合う。狭い境内には延宝4年（1676）の庚申石灯籠や寛政6年（1794）の銘のある追分道標などがある。

すぐ近くの「報徳二宮神社」と「如来寺」を訪ねる。二宮尊徳の墓は小田原にあると思っていたが、こちらにあった。各地で報徳仕法という農村復興事業を推進し、幕府から用水路二宮堀など日光の仕法を命じられた。社殿の裏に回ると墓石の後ろに彼の円墳があった。

如来寺は彼の葬儀が営まれた寺で、将軍家光が宿泊した。

宿が途切れるといよいよ杉並木が始まり、1kmほど「杉並木公園」が続き、世界各国の珍しい風車があつて昔から杉線香やソバを挽いていた。

杉並木に戻ると木洩れ日が鬱蒼と茂る隙間から光線を引いて歩道に落ち、一層旅情をかきたてる。

街道最後の「瀬川の一里塚」を抜け、戊辰戦争時の砲弾跡を残す「砲弾打ち込み杉」や並木随一の巨木「並木太郎」に感心しつつ杉木立を進めば、やがて右手に東武日光駅が現れ最後の「鉢石宿」に入る。

坂を登りきれば東照大権現名付親の天海僧正像と、戊辰戦争時日光を戦火から守るべく幕府方の大島圭介と話合った板垣退助像が両側に立ち、左手を見れば大谷川に架かる赤い橋が「神橋」だ。この橋を渡れたのは将軍と修験者のみであった。

（幕末戊辰戦争で日光に攻め上がった新政府軍の中には東照宮を焼き払えとの意見があつたが、参謀板垣退助がこれを中止させた）

以上で日本橋から36里（140km）の日光街道（道中）の旅を終える。

神橋の向こう側の長い坂道を登りきると、巨大な日光山輪王寺、そして東照宮、二荒山神社へと通じている。

松尾芭蕉も日光に立寄り、奥の細道に“あらとふと青葉若葉の日の光”の一句を残している。

但し彼は日光山の開基を空海大師としているが、実際は奈良時代の勝道上人である。ただ空海との伝承はあったらしい。



日光の杉並木

2020年3月～年5月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	3 月	4 月	5 月
学習会	予定なし	予定なし	5月9日(土) 能見台CC 9:30～12:30 ・“わ”の会 定期総会 ・新約論語：科学と歴史 一孫にも教えてあげたくなる話— “わ”の会会員 工藤 君明 氏
寺社を 巡る会	3月5日(木) 10:00 集 合：御殿場線 下曽我駅 テーマ：梅の里と曽我兄弟の足跡を 訪ねる 訪問先：法蓮寺、別所梅林、宗我神 社、法輪寺、城前寺等	4月2日(木) 10:00 集 合：根岸線 桜木町駅 テーマ：横浜もののはじめを訪問 訪問先：鉄道発祥の地、馬車道等 4月10日(金) ・総 会：場所・時間未定	5月7日(木) 10:00 集 合：場所未定 テーマ：未定
古文書を 読む会	3月12日(木) 10時～12時 場 所：区民活動センター テーマ：磯子村久木堤家文書 3月26日(木) 10時～12時 場 所：区民活動センター テーマ：高田屋嘉兵衛遭厄日記	4月9日(木) 10時～12時 場 所：区民活動センター テーマ：磯子村久木堤家文書 4月23日(木) 10時～12時 場 所：未定 テーマ：高田屋嘉兵衛遭厄日記	5月14日(木) 10時～12時 場 所：未定 テーマ：磯子村久木堤家文書 5月28日(木) 10時～12時 場 所：未定 テーマ：高田屋嘉兵衛遭厄日記
ふれあいの 道歩こう会	3月19日(木) 予備日 26日(木) 独自コース 79 番＝通算 160 回 小田原城総構 山コース 神奈川県 小田原市	4月16日(木) 予備日 17日(金) 独自コース 80 番＝通算 161 回 竹の寺から子ノ権現 埼玉県 飯能市	5月21日(木) 予備日 22日(金) 独自コース 81 番＝通算 162 回 世界で唯一カッコソウの咲く鳴神 山 群馬県 桐生市
懐かしの 映画を 観る会	3月9日(月) 金沢 CC 12:15～ かくも長き不在 3月24日(火) 金沢 CC 12:15～ バベットの晩餐会	4月13日(月) 金沢 CC 12:15～ 真昼の決闘 4月27日(月) 金沢 CC 12:15～ 幕末太陽伝	5月11日(月) 金沢 CC 12:15～ 陽のあたる場所 5月25日(月) 金沢 CC 12:15～ 北京ヴァイオリン
浮 雲 俳句会	3月29日(日) 9:30～ 第138回例会 能見台CC テーマ 観音崎 地理	4月26日(日) 9:30～ 第139回例会 能見台CC テーマ 能登の岬 人事	5月24日(日) 9:30～ 第140回例会 能見台CC テーマ 佐多岬 宗教
パソコン を使い こなす会	3月10日(火) 未定 スマホ講座 — スマホの使い方 — 3月17日(火) 未定 スマホ講座 — Facebook、LINE — 9:30～12:00	未定	未定

連絡先

- ・学習会 090-6176-4543(内田) ・古文書を読む会 784-4900(真田) ・浮雲俳句会 774-3878(北野)
- ・ふれあいの道歩こう会 790-0128(柴崎) ・懐かしの映画を観る会 080-6639-1606(佐藤)
- ・寺社を巡る会 046-866-3339(吉田寿紀) ・パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記

今年度の9月より編集委員を拝命いたしました。今回、編集後記を書いてくださいとのことで改めて会報を読み直してみました。

私が今まで定例の学習会で何気なく 受け取っていた会報や学習会の資料は、少数の人々の献身的な努力と奉仕によって会員の手元に届いていたことや、開催日当日に学習会が時間通りに滞りなく運営されているのは陰の存在あってこそ、ということに改めて気付かされました。編集委員に参加しなければこのあたりまえのことに気がつくことはなかったでしょう。私自身はこれといって大したことはできませんが皆様のお手伝いが少しでも出来ましたら幸せに思います。
(橘 博章 記)

発行日	2020年5月9日
発行月	年4回発行(2、5、8、11月)
発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集長	山腰 策次郎
編集委員	田中 徳明 佐藤 和広 渡邊 紀一 林 元一 田野実 裕之 橘 博章 江口 正彦 鶴岡 重典